

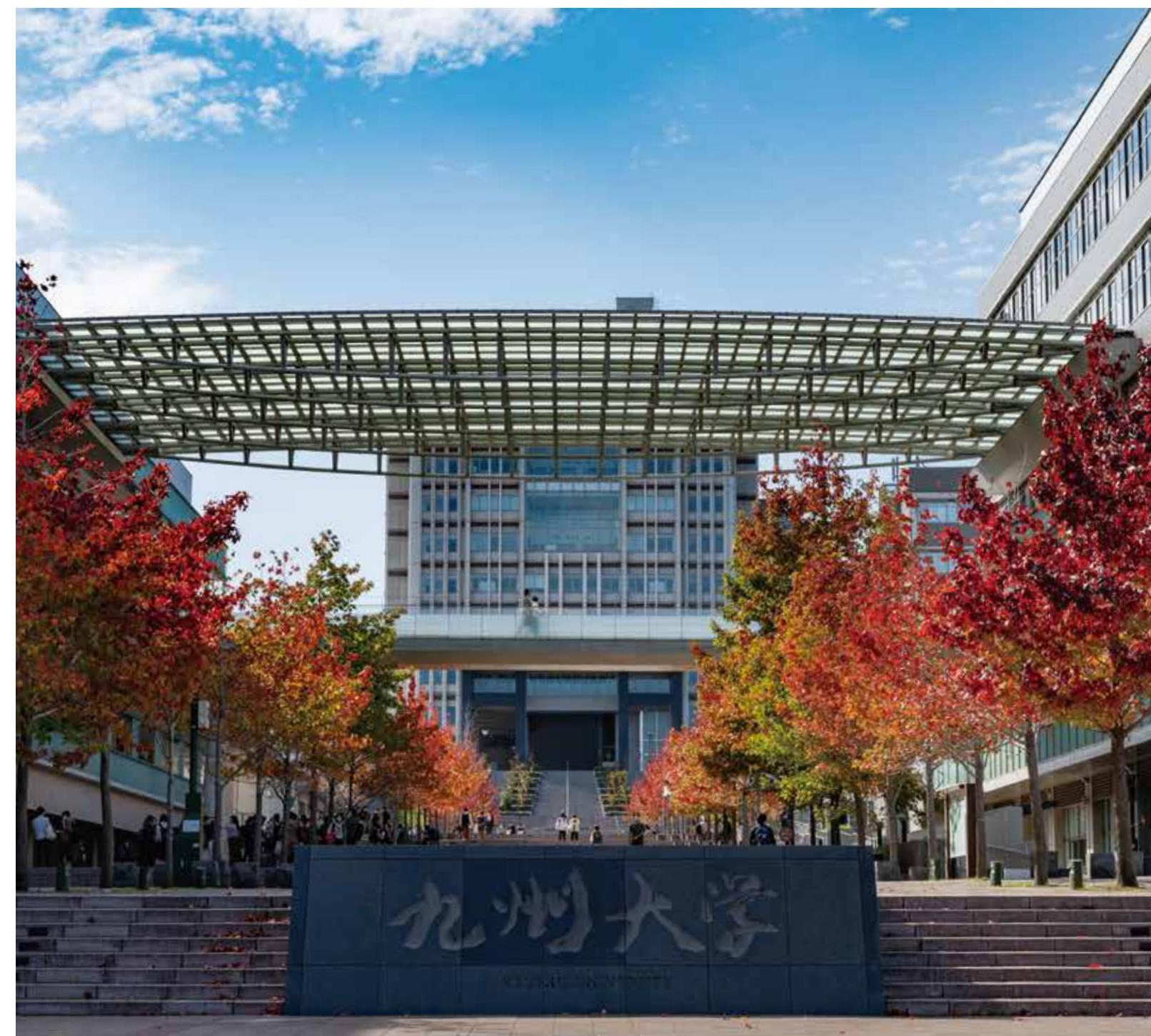
広告内容に関するお問い合わせは、直接広告主までお願いします。



# FINANCIAL REPORT

2021

財務レポート 2021





# 九州大学財務レポート 2021

## 目次

総長メッセージ	01
九州大学基礎データ	03
九州大学の歴史	05
九州大学の将来構想	
Kyushu University VISION 2030	07
指定国立大学法人構想	09

パートナーとしての九州大学	
国民のみなさまへ	11
新型コロナウイルス感染症への対応	17
学生・受験生・保護者のみなさまへ	19
病院ご利用・医療関係者のみなさまへ	23
企業・研究者のみなさまへ	27
地域のみなさまへ	30
同窓生のみなさまへ	31

九州大学は、「総合知」によって、社会課題の解決とそれによる社会・経済システムの変革に貢献する「総合知で社会変革を牽引する大学」となることを基本理念として掲げ、「指定国立大学法人」の指定を受けるとともに、今後10年間の本学の方向性・方針として「Kyushu University VISION 2030」を策定し、最高水準の研究教育を展開する大学への改革に取り組んでいます。

## 総長メッセージ

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、社会経済は甚大な被害を受け、人々の行動が大幅に制限されるなど、私たちの日常は大きく変わりました。この劇的な社会情勢の変化の中、新型コロナウイルスと共に存しながら人間社会の営みも維持していく *with & beyond* コロナ時代の持続可能な社会の再構築が必要です。これまで、大学が培ってきた叡智を結集し、新しい時代の困難な課題への解決策を示していくことが、大学に課せられた重要な役割だと考えています。持続可能な社会の発展と人々の多様な幸せ(=well-being)を実現できる社会に貢献していくためには、九州大学も新たなステージへと踏み出さなければなりません。

九州大学が2030年に向けて目指す姿は、多様な「知」と「人材」を結集し、新たな価値

創造の基盤となる研究とイノベーションの創出を牽引し、自然科学系と人文社会科学系、さらにはデザインを加えた知による「総合知」によって、社会的課題の解決とそれによる社会・経済システムの変革に貢献する「総合知で社会変革を牽引する大学」です。この「総合知」による社会・経済システムの変革の波を、福岡・九州から、日本、アジアそして世界へと広げ、ひいては、大学の研究教育資源の発展に繋がるという好循環を生み出すイノベーション・エコシステムを形成することが必要です。

2021年11月、本学は、文部科学大臣より「指定国立大学法人」の指定を受けるとともに、2030年に目指すべき姿を実現するため、今後10年間の本学の方向性・方針として「Kyushu University VISION 2030」を策定しました。

今後、本学が、多くの学生や研究者にとって魅力のある世界最高水準の教育、研究を展開し、国際競争力をもつ各大学に伍していくために、歴史と伝統に培われた本学の学問を基盤に、一丸となって「Kyushu University VISION 2030」に基づく新しい取組を進めてまいります。

このような取組を通じて、本学がより一層社会に貢献して行くために、九州大学を支えていただいている皆様との対話が不可欠です。

皆様におかれましては、財務レポートを通じて、九州大学の将来構想、活動、取組、挑戦をよりご理解をいただき、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年12月

第24代九州大学総長

石橋 達朗

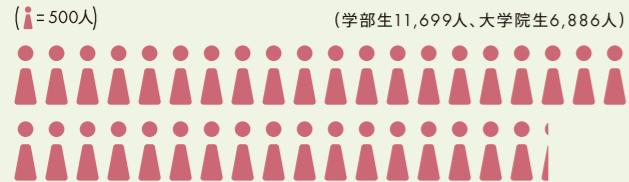


# 九州大学基礎データ

数字から見える九州大学のすがた。

令和3年5月1日現在

**学生数**  
**18,585** 人



**教職員数**  
**8,062** 人



**教員あたり学生数**  
**9** 人の学生に **1** 人の教員



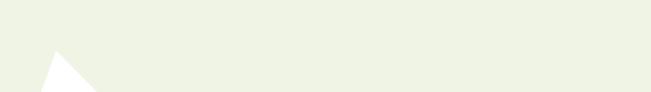
**病床数**  
**1,415** 床



**蔵書数**  
**428** 万冊



**土地面積合計**  
**75,731,382** m<sup>2</sup>



**最大級の面積**

伊都キャンパス  
**2,717,130** m<sup>2</sup>

東京ドーム約60個分

箱崎キャンパス跡地  
**412,571** m<sup>2</sup>

病院キャンパス  
**311,239** m<sup>2</sup>

筑紫キャンパス  
**257,334** m<sup>2</sup>

大橋キャンパス  
**58,862** m<sup>2</sup>

別府キャンパス  
**100,217** m<sup>2</sup>

その他(演習林など)  
**71,874,029** m<sup>2</sup>

**学部数**  
**12** 学部

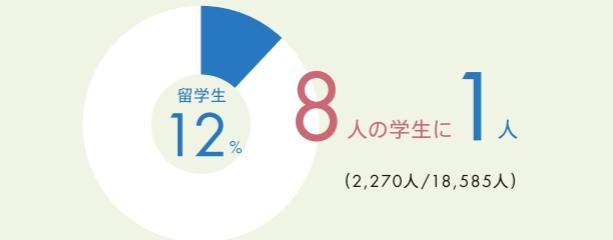
共創学部、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、芸術工学部、農学部

**大学院(学府)数**

人文科学府、地球社会統合科学府、人間環境学府、法学府、法務学府、経済学府、理学府、数理学府、システム生命科学府、医学系学府、歯学府、薬学府、工学府、芸術工学府、システム情報科学府、総合理工学府、生物資源環境科学府、統合新領域学府

**18** 学府

**留学生数**  
**2,270** 人



**国際交流協定**

ケンブリッジ大学  
マサチューセッツ工科大学  
プリンストン大学 など

**695** 件

**国際交流数(留学関係)**

**96** の国・地域  
から九州大学へ

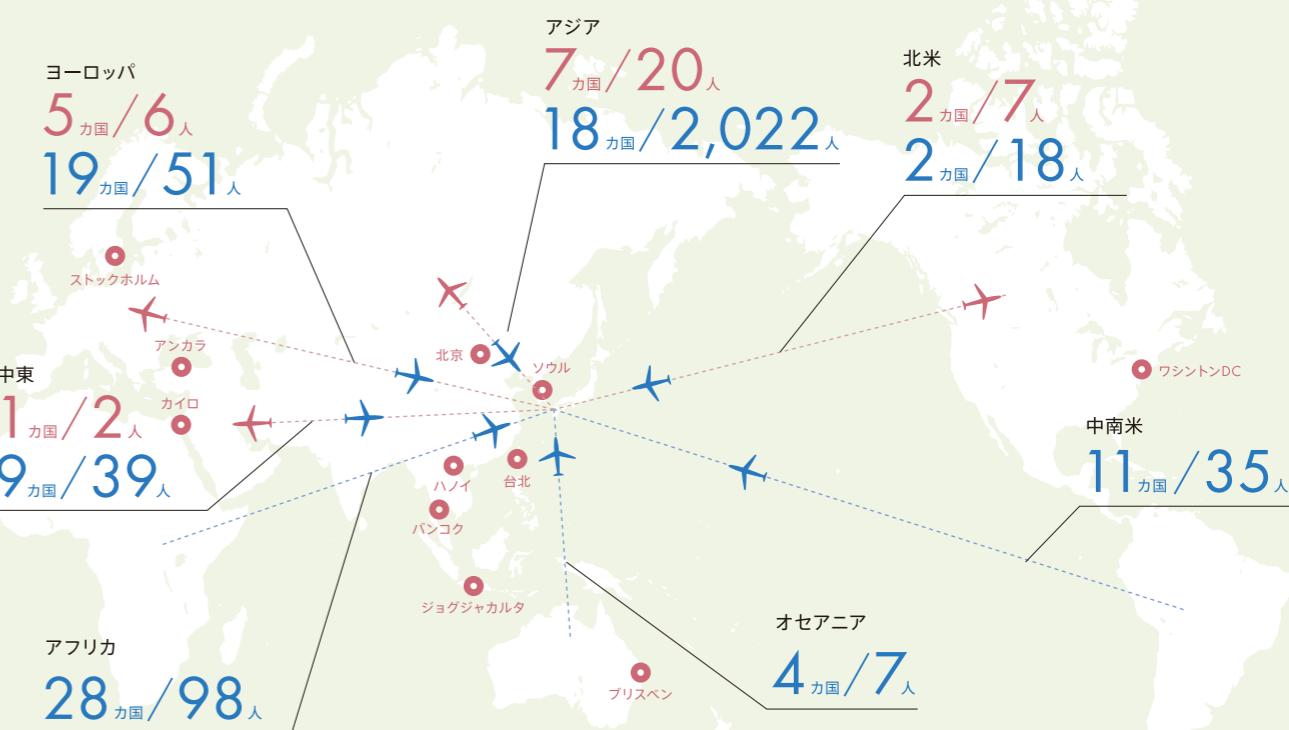
2,270人の留学生が

35人の九大生が **15** 国・地域へ

※本学学生の海外留学については新型コロナウイルス感染症の影響により減少

**海外オフィス・プランチオフィス・プロジェクト拠点**  
**11** 力所

● = オフィス拠点



# 九州大学の歴史

1879 (明治 12 年)	県立福岡医学校開設
1888 (明治 21 年)	県立福岡病院開設
1903 (明治 36 年)	京都帝国大学福岡医科大学創立
1911 (明治 44 年)	九州帝国大学創立 (工科大学・医科大学から成る)
1919 (大正 8 年)	医学部、工学部に改称 農学部設置
1924 (大正 13 年)	法文学部設置
1939 (昭和 14 年)	理学部設置
1947 (昭和 22 年)	九州大学に改称
1949 (昭和 24 年)	法学部、経済学部、文学部設置 新制九州大学発足、教育学部設置
1961 (昭和 36 年)	創立五十周年
1964 (昭和 39 年)	薬学部設置
1967 (昭和 42 年)	歯学部設置
1968 (昭和 43 年)	九州芸術工科大学創立
2003 (平成 15 年)	九州芸術工科大学と統合
2004 (平成 16 年)	国立大学法人化
2005 (平成 17 年)	伊都キャンパス開校
2011 (平成 23 年)	創立百周年
2012 (平成 24 年)	創立百周年記念式典挙行
2018 (平成 30 年)	共創学部設置
2018 (平成 30 年)	伊都キャンパス完成
2021 (令和 3 年)	指定国立大学法人に指定

世界へ飛躍する九大新世紀

Leap into the Next



# 九州大学の将来構想 Kyushu University VISION 2030

## 総合知で社会変革を牽引する大学へ

九州大学が2030年に向けて目指す姿は、多様な「知」と「人材」を結集し、新たな価値創造の基盤となる研究とイノベーションの創出を牽引し、「総合知」によって、社会的課題の解決とそれによる社会・経済システムの変革に貢献する「総合知で社会変革を牽引する大学」です。

「Kyushu University VISION 2030」は、これを実現するため、九州大学の未来を担う若い教職員を含めた全学的な

議論を重ねて得た今後の10年間の本学の方向性、方針を示したものです。

今後、九州大学が、多くの学生や研究者にとって魅力のある世界最高水準の教育、研究を展開し、国際競争力をもつ各國の大学に伍していくために、歴史と伝統に培われた本学の学問を基盤に、一丸となって「Kyushu University VISION 2030」に基づく新しい取組を進めてまいります。

### ガバナンス

自律性と多様性を備えたガバナンスで、持続可能な経営体への変革を図る。

### ● エビデンスに基づく戦略的な経営判断、施策立案、評価と資源配分の促進

大学の諸活動に関するデータを収集して分析し、そのエビデンスを生かして大学の経営判断、施策の立案と評価や効果的な資源配分など、持続可能な経営体への変革を促進する。

### ● ステークホルダーとのエンゲージメント強化による外部の多角的な視点や意見の施策への反映拡大

多様なステークホルダーが参画する機会を拡大し、多角的な視点や意見を施策に反映させるなど大学経営の改善を図り、地域の産学官民連携組織とのエンゲージメント強化により、地域社会の発展に貢献する。

### ● ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョンの促進

本学を構成する全ての職種と職位において国籍、性別や年齢の区別なく、多様な価値観やライフスタイルを持つ人材の雇用・登用を促進し、経営視点、国際視点やエクイティ視点を大学運営に活用する環境を構築する。

### 教育

新たな社会をデザインする力と課題を解決する力を有し、グローバルに活躍できる価値創造人材を育成する。

### ● 課題解決・価値創造の視点や発想を学ぶ教育の全学展開

課題発掘・課題解決・価値創造の視点や発想を学ぶ教育を全学展開し、総合知により新たな社会をデザインする力や新たな価値を創造できる力を備えた人材の育成を推進する。

### ● 分野融合型学位プログラムの展開による社会的課題の解決を牽引できる博士人材の育成

「高度な知のプロフェッショナル」を育成する分野融合型学位プログラムなどの展開により、多様な能力や価値観をもった博士人材の育成を推進する。

### DX

新たな価値を次々に生み出すデータ駆動型の教育、研究、医療を展開し、人々に真の豊かさをもたらす未来社会の実現に取り組む。

### ● DXによる新たな社会モデルの研究・発信

「人間中心の社会」という価値観のもと、DXによって実現可能な新たな社会モデルを多様な分野の知の統合により探究し、その成果を社会に発信・共有する。

### ● 自らの専門分野に数理・データサイエンス、AIを応用できる学生・研究者の育成

オープンデータ等を活用して数理・データサイエンスやAIを学べる研究教育環境の充実を図り、自らの専門分野にそれらの知識・技術を応用できる学生・研究者を育成する。

### ● 社会変革や社会実装を見据えたDXプロジェクトの推進

研究、教育、医療等のDXによって社会・経済システムの変革につながる新たな価値を創造し、自治体や企業等との協働により、その価値を多層的な地域で展開する。

### 研究

学術基盤研究から社会変革に貢献する展開研究まで広く研究力を強化し、国際競争力を高めるとともに社会的課題の解決に貢献する。

### ● 総合知の創出に向けた研究戦略機能と支援制度の強化

大学の総合的な研究戦略機能を高めるとともに、効果的な学内資源の配分による研究支援を通じて、学術を発展させる総合知や、社会的課題解決に資する総合知を創出する基盤を強化する。

### ● 戰略的な資源配分による先端研究強化と新領域の発掘

戦略的に学内資源を配分し、脱炭素・医療・健康・環境・食料など社会的課題解決に資する先端研究の強化・加速を図るとともに、これに続く新たな研究分野の発掘・育成を促進する。

### ● 自由闊達な研究を担う多様な人材の獲得・育成と研究環境の充実

秀逸な若手・女性・外国人研究者の獲得・育成・定着につなげる多様な制度を一体的に展開するとともに、FQR制度による研究時間の確保や研究機器の共同利用等を通じて自由闊達な研究を保証する環境の充実を図る。

### 国際協働

組織的な国際協働を通じて、国際頭脳循環のハブとなり、国際社会においてリーダーとなる人材の輩出及び地球規模の課題解決に貢献する。

### ● 戰略的な国際連携の推進による国際協働の深化と拡大

本学の強み・特色を生かして国際大学連携コンソーシアムにおいて主導的な取組を展開するとともに、重点交流校の選定と連携強化を行い、国際協働の深化と拡大を図る。

### ● 若手研究者の長期的な研究教育連携ネットワークを構築

国内外の若手研究者が国・専門分野・世代を超えて力を養う国際頭脳循環の拠点を形成し、研究教育連携ネットワークの構築と拡大を図る。

### ● 外国人教員や留学生が活躍できる研究教育環境の充実

民間等との協働により、留学生や外国人研究者に対する生活支援や受入環境・就学環境の改善を図るとともに、外国人研究者・留学生と日本人研究者・学生との交流・共修を促進する。

### 財務基盤

多様かつ安定的な財源の確保と運用を行い、持続的・自律的な経営を実現する。

### ● 組織対応型連携の強化による外部資金の拡大

企業等との組織対応型連携を拡大し、社会変革・実装につながる成果の創出を促進して、大型の共同研究や受託研究等の外部資金の獲得につなげ、研究教育活動の高度化に必要な資金の還流を図る。

### 社会共創

知の拠点として地域社会やグローバル社会と共生・共創し、研究教育活動を通して社会の持続可能な発展と人々のウェルビーイングの向上に貢献する。

### ● 産学官民の協働による課題探索やビジョンメイキング

産学官民で組織、制度に捉われない協働の場を形成し、バックキャストによる中長期的ビジョンメイキングや課題探索を進め、産学官民共同プロジェクトの創出を促進する。

### ● 社会的課題の解決や社会・経済システムの変革に資する研究成果の社会実装化

イノベーション創出につながる独創的な研究成果をいち早く発掘し、社会との協働、知的財産やベンチャー企業の創出拡大などを通して、福岡・九州からアジアそして世界へと研究成果の社会実装を展開する。

### ● シチズンサイエンス(地域コミュニティと密接に結びついたアウトリーチ活動)の促進

地域でのアウトリーチ活動を通じて、「責任ある研究・イノベーション」の展開を図るとともに、地域コミュニティと密接に結びついた社会実験的な研究教育活動を推進する。

### 医療

志の高い優れた医療人の育成に努め、最先端医療の創出と質の高い診療の提供に尽力し、人々の期待と信頼に応える最善の医療を追求する。

### ● 新興・再興感染症に対する医療の提供と専門医育成

新型コロナウイルス感染症など新興・再興感染症患者の診療に加え、それを支える関連の医療人を育成し、地域における感染症対策全般に貢献する。

### ● がんゲノム医療中核拠点病院、臨床研究中核病院としての地域医療への貢献

ゲノム情報に基づくがん診療など地域における最先端医療を担い、臨床研究中核病院として革新的医薬品や医療機器開発に貢献する。

### ● コホート研究やプレシジョンメディシンなど個別化医療の展開

疾患・地域コホートにより臨床情報と検体を集積し、新たに開発する技術で解析して、患者個人の疾患の成り立ちを分子レベルで明らかにし、個別化された最先端医療を実現する。

### ● 国内外の同窓会組織など、多様なステークホルダーとの連携強化による寄附金収入の拡大

国内外の同窓会や留学生ネットワークなど多様なステークホルダーとの連携の強化及びファンドレイジング機能の強化を通じて、寄附金収入の拡大を図る。

# 指定国立大学法人構想

# ガバナンス

## 指定国立大学法人構想の実現に向けて

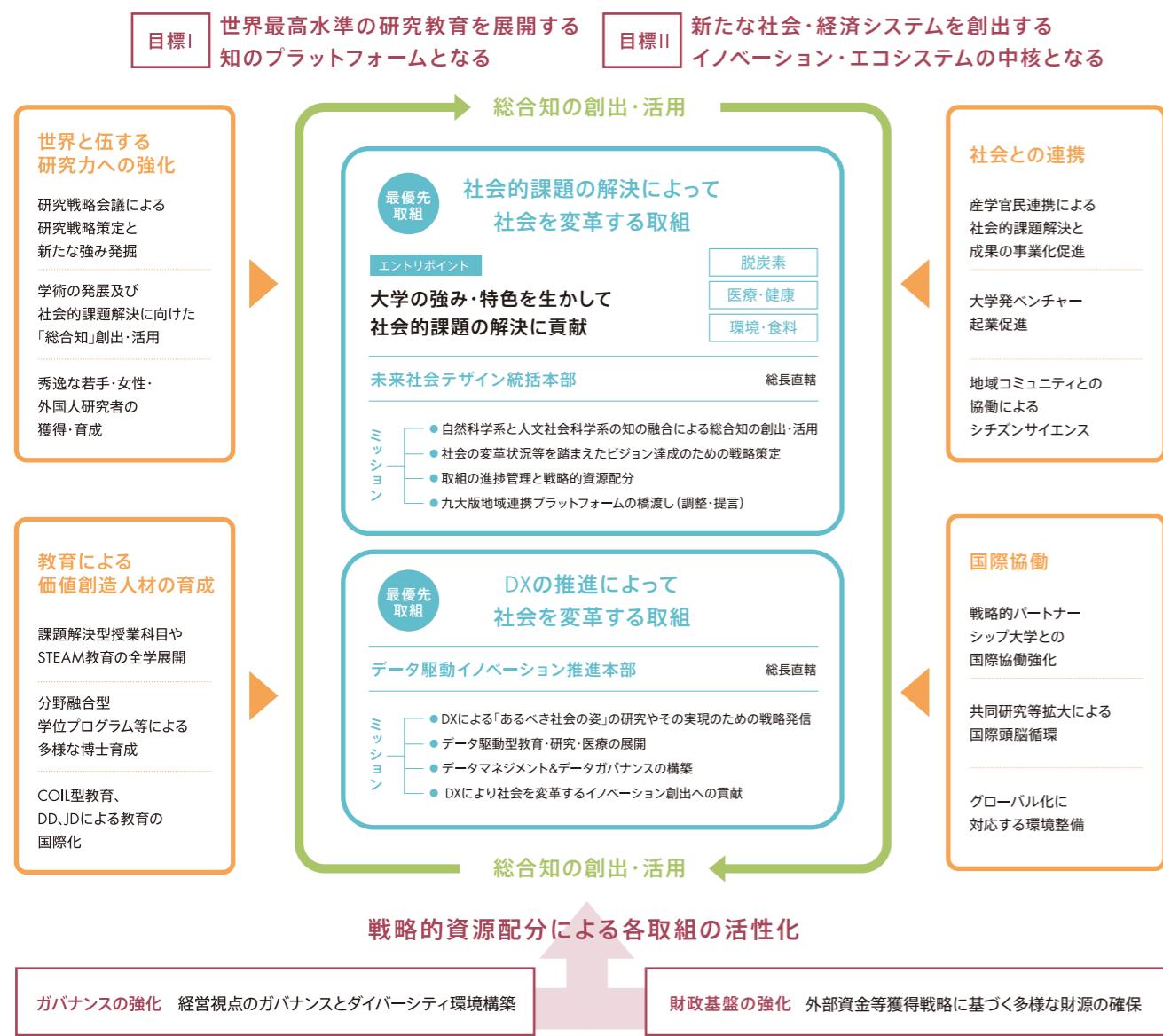
九州大学は、2021年11月に文部科学大臣から世界最高水準の教育研究活動の展開が見込まれる大学として第4期中期目標期間における「指定国立大学法人」の指定を受けました。

指定国立大学法人は、国際的な競争環境の中で、世界の有力大学と伍していくことが求められ、社会や経済の発展に貢献する取組の具体的な成果を積極的に発信し、国立大学改革の推進

役としての役割を果たすことが期待されています。

この指定を受け、本学は指定国立大学法人として「総合知で社会変革を牽引する大学」となることを目指し、最高水準の研究教育を展開する大学への改革を進め、指定国立大学構想の実現に取り組んでまいりますので、一層のご支援とご協力をお願い申しあげます。

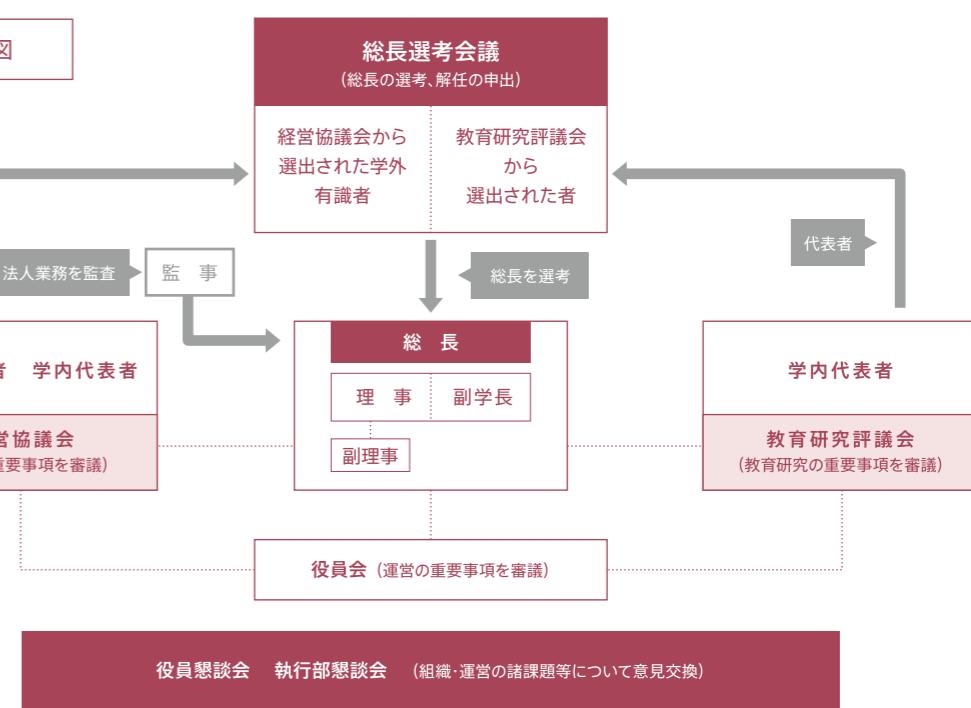
## 総合知で社会変革を牽引する大学へ



## 組織の役割

本学では、総長のリーダーシップのもと、各組織の役割と責任を明確化し、適正な意思決定プロセスを構築しています。

- 総長は、総長選考会議において選考され、文部科学大臣により任命されます。総長は、校務をつかさどり、所属職員を統督するとともに、本学を代表し、その業務を総理します。
- 理事(8名)は、総長を補佐して法人の業務を掌理し、うち1名はプロボストとして教育研究の推進に係る企画及び戦略の総括、総合調整等を行います。
- 副学長(15名)(うち5名は理事が兼務)は、総長を助け、命を受けて校務をつかさどります。
- 副理事(10名)は、理事の職務を助け、法人の業務を遂行します。
- 監事(2名)は、文部科学大臣により任命され、法人の業務の監査を行います。
- 総長選考会議は、総長の選考及び解任の申出を行う権限を有し、経営協議会から選出された学外有識者、教育研究評議会から選出された委員及び総長選考会議が選出した理事(4名以内)により構成されます。
- 役員会は、大学の運営に係る重要事項を審議するもので、総長及び理事(8名)で構成され、監事も出席します。
- 経営協議会は、本学の経営に関する重要事項を審議するもので、総長、総長が指名する理事(5名)、病院長、総長が指名する部局長(6名)、学外有識者(15名)で構成されます。様々な社会の意見を審議に反映させるため、半数以上が学外委員となっています。
- 教育研究評議会は、教育研究に関する重要事項を審議するもので、総長、理事、副学長、研究院や附置研究所等の部局の長により構成されています。
- 役員懇談会は、本学の組織及び運営に係る諸課題等について、構成員間の意見交換を行うものです。総長、理事、監事及び病院長が出席します。また、この懇談会に副学長、副理事を加えて開催する場合を執行部懇談会と称します。



# 国民のみなさまへ

健全な運営を図りつつ、  
知の世界的拠点  
として発展し続けます。



## 運営費交付金だけに頼らない 財政基盤

運営費交付金は、大学の業務運営の基盤となる財源として、毎事業年度、国から交付されるものです。法人化初年度の平成16年度は485億円の交付を受けましたが、国の厳しい財政状況により年々減少傾向にあり、令和2年度は、390億円の交付となりました。大学が持続的に発展していくためには、運営費交付金だけに頼らない財政基盤の確立は不可欠との考えのもと、大学施設の有効活用などにより自己収入の増加を図るとともに、魅力的な研究課題を提案することで受託研究や補助金など外部資金の獲得(P41参照)に努めています。

運営費交付金



## 社会との新たな連携の「カタチ」

インターネットを利用して自らの夢やアイデアを発信し、共感を得た方々から資金協力を受け、その夢やアイデアを実現する仕組みであるクラウドファンディングは、財源確保に限らず、大学の教育研究活動の広報・情報発信や国民の理解増進等の側面を担う事業であり、令和3年9月時点で13プロジェクトを実施し、約4,070万円の支援を獲得しました。

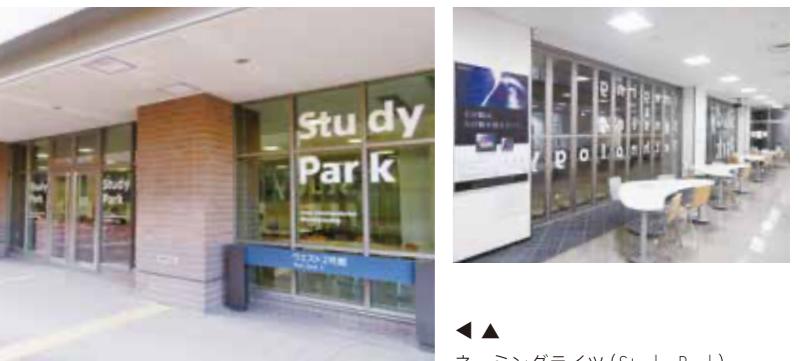
また、契約企業のリクルート活動の促進や企業認知度の向上等を目的として本学の施設等に愛称を設定するネーミングライツでは、平成31年3月に契約したNSSOLラウンジ(日鉄ソリューションズ株式会社)に続き、令和2年10月にStudy Park(ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社)を新しく契約しました。

本学では、これらの取組を通じて、社会との連携を強め、より多くの方々に九大の取組を知っていただき、本学の応援団、ファンになっていただきたいと思っております。



九州大学  
クラウドファンディング特設サイト  
[https://readyfor.jp/lp/kyusyu\\_univ/index.html](https://readyfor.jp/lp/kyusyu_univ/index.html)

九州大学クラウドファンディング  
九州大学 × Readyfor



# 先端研究による社会変革

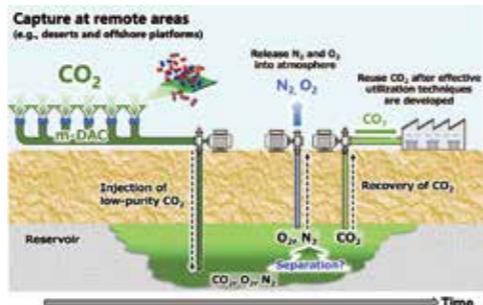
## 「脱炭素」への貢献

### 大気中からのCO<sub>2</sub>直接回収と地中貯留で ネガティブエミッションを達成するコンセプトを構築！

大気中から二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を直接回収するDirect Air Capture(DAC)は、回収するCO<sub>2</sub>純度の低さが課題と言われていました。九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所／ネガティブエミッションテクノロジー研究センターの辻 健教授、藤川 茂紀主幹教授、同大学高等研究院の国武 豊喜特別主幹教授、産業技術総合研究所の徂徠 正夫研究グループ長、志賀 正茂特別研究員は、膜分離を用いたDACで回収する低純度のCO<sub>2</sub>でも地中に貯留できることを提示し、大気中からCO<sub>2</sub>を削減しネガティブエミッションに寄与するコンセプトを構築しました。

DACは大気中から直接CO<sub>2</sub>を回収するため、設置場所を選ばません。つまり、砂漠や海洋プラットフォームなどで、DACと地中貯留を融合したCO<sub>2</sub>削減システム(右図)の設置が可能になると考えられます。さらに、今後CO<sub>2</sub>を資源として利用する時代が来れば、貯留した

CO<sub>2</sub>を地中から回収・利用する道が開けます。今後は、この研究で構築したコンセプトを具現化するために、正確なコスト計算などを実施する予定です。



▲ DACで回収した低純度CO<sub>2</sub>を地中貯留する模式図

### 「新型 MIRAI」FCV 納車式・「九大水素モーターショー」 (九州・山口 FCV キャラバン in 九州大学)を開催

2021年3月19日(金)、水素エネルギー国際研究センター(センター長: 佐々木一成副学長)は、2020年12月に発売されたトヨタ「新型MIRAI」FCV(燃料電池自動車)」を公用車として導入するにあたり、納車式ならびにトヨタ自動車の協力による「九大水素モーターショー」(九州・山口FCVキャラバンin九州大学)を開催しました。本学では、2005(平成17)年の伊都キャンパス開設時から水素エネルギーの研究教育に集中的に取り組んでおり、FCV、水素ステーション、大型燃料電池を活用した社会実証も進めてきましたが、今回納車されたFCVを通じて、再生可能エネルギーを利活用した将来社会の検討、水素に関する社会受容性評価、エネルギー貯蔵技術実証と課題抽出、再エネ電力接続に関する解決策の提示など、九州大学伊都キャンパスから未来のエネルギー社会の姿を発信していきます。先端技術を見る機会がなかった本学学生に遠隔講義の補講として、今回の九大「水素モーターショー」を通して実際の技術に触れる機会を持つもらうことで、将来のエネルギー技術を担う研究者を育成する教育としての意味合いもあります。会場には新型MIRAIのほかに水素

エネルギーを利用した最先端の燃料電池車両(キッチンカー、Moving-e、小型トラック、コースター、電源車など)計9台の展示を行いました。最先端の水素エネルギーを利用した多様な燃料電池車両が一堂に会する展示は、世界でも例が無い貴重な展示会になりました。



▲ 「新型 MIRAI」FCV 納車式・「九大水素モーターショー」の様子

## 「医療・健康」への貢献

### 総合コホートセンターを基盤とした新知見発掘の推進と国際的人材育成

九州大学では、1960年代より半世紀にわたり世界に先駆けて大規模コホート研究を展開してきました。久山町や福岡市東部における地域コホート、カネミ油症患者を対象とする環境コホート、脳卒中、糖尿病、腎臓病、高血圧の患者さんを対象とする疾患コホートなど6万人にも及ぶコホート研究を展開しています。その中心となるのが1961年にスタートした久山町研究です。福岡県久山町の一般住民の皆様を対象にして、脳卒中をはじめとする生活習慣病の疫学研究を行ってきました。最近、糖尿病が認知症の危険因子であることをつきとめ、その対策のための全国研究を主導しています。

2014年に総合コホートセンターを開設し各コホートデータの集約化・均一化及びコホートデータの精度向上を行うとともに、「新世代コホート研究」及び「国際共同コホート研究」の推進を行なっています。高度な専門的知識を有し、国際的な臨床疫学研究をリードできる人材を育成していきます。



▲ 総合コホートセンター

## 「環境・食料」への貢献

### 深刻化するマイクロプラスチックによる海洋汚染

海を漂流・漂着するプラスチックごみは、時間が経つにつれ次第にマイクロプラスチック(MP)と呼ばれる微細片となり、誤食を介して海洋生物に取り込まれます。海洋生物がマイクロプラスチックを簡単に体内に摂取してしまうことで引き起こされるストレスはすでに大きな懸念となっており、やがて海産物を口にする私たちの食卓にも影響を及ぼすことになるかもしれません。さらには、マイクロプラスチックは有害物質を吸着する性質があり、海洋生態系により深刻なダメージを与える可能性が、これまでの研究で示されています。

この問題を解決するために、応用力学研究所の磯辺篤彦教授らは、MP浮遊量をコンピュータ・シミュレーションで再現し、50年先までの太平洋全域における浮遊量を予測したところ、このままでは、2030年までに海洋上層での重量濃度が現在の約2倍、2060年には4倍になるとの結果が出ました。将来予測に加え、この研究では、実際のマイクロプラスチック浮遊量が明らかとなり、科学者たちによる海洋生態系に及ぼす汚染物質の影響の解明に役立てられています。研究を通じて科学的証拠を提供していくことで、代替素材の生産の



▲ 太平洋観測での浮遊マイクロプラスチック採取の様子

## シェア型EVスクーターバイクの実証実験

株式会社新出光は、環境に配慮したシェア型移動サービスの実現を目指し、本学の学生・教職員を対象に伊都キャンパス～JR九大学研都市駅までの移動手段として、EVスクーターの無償レンタルを行い、公共交通を補完する新たな移動サービスとしての有効性の検証と、サービスの形成に向けた利用ニーズや走行データ等の収集を目的に実証実験を実施しました。

今回の実証実験で得られた成果と課題を検証し、サービスの事業性等について検討を進めております。

九州大学は、様々な課題解決の一助となるよう、今後も実証実験キャンパスとしての役割を果たしていきます。



▲ シェア型EVスクーターバイク

## NTTドコモ・九州大学による伊都キャンパスの5Gエリア化

株式会社NTTドコモ九州支社と九州大学は、5Gの早期社会実装による社会課題解決への貢献を目指し、令和2年9月より伊都キャンパスの5Gエリア化（ミリ波対応）を実施しております。

伊都キャンパスでは、「世界最高水準の研究・教育拠点の創造」と「時代の変化に応じて自立的に変革し、活力を維持し続ける開かれた大学の構築」を基本的な考え方としており、今回の5Gエリア化は、5Gの特徴である「高速・大容量」「低遅延」「多数接続」を活かした教育・研究インフラの整備・改善だけでなく、キャンパス内の5Gエリアを一般企業などに広く開放し、地域

社会に開かれた実証実験キャンパスの充実を目指す九州大学の新たな取組です。

ドコモと九州大学は、過去にも共同してAIオンデマンド交通の実証実験を実施しており、その成果は、学内バス「aimo」としての実用化を皮切りに全国各地に広がっております。今後とも、これまでのパートナーシップを活かし、5Gを活用した実証実験などを通じて、様々な社会課題の解決に貢献してまいります。

## 箱崎キャンパス跡地について

本学は、箱崎キャンパス跡地の計画的なまちづくりと円滑な跡地処分を推進するため、平成25年7月に福岡市とともに、学識経験者、地域住民代表、経済界等で構成される「箱崎キャンパス跡地利用協議会」を発足しました。平成30年7月に、まちづくりの指針となる「箱崎キャンパス跡地グランドデザイン」を策定するとともに、福岡市が先進的まちづくりとして推進する「FUKUOKA Smart EAST」構想の箱崎への導入実現に向けて、福岡市をはじめとした関係機関と連携して、先進技術の実証実験等を行ってまいりました。

これらの取組を踏まえた魅力あるまちづくりを目指しており、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を見極めながら、土地利用事業者の公募を開始する予定です。

また、旧工学部本館や本部第一庁舎などの近代建築物群は今後も本学が所有し、箱崎サテライトとして活用していきます。



▲旧工学部本館



### 九州大学が関係機関と連携して取り組むまちづくり事業

#### 北エリア(約20ha)

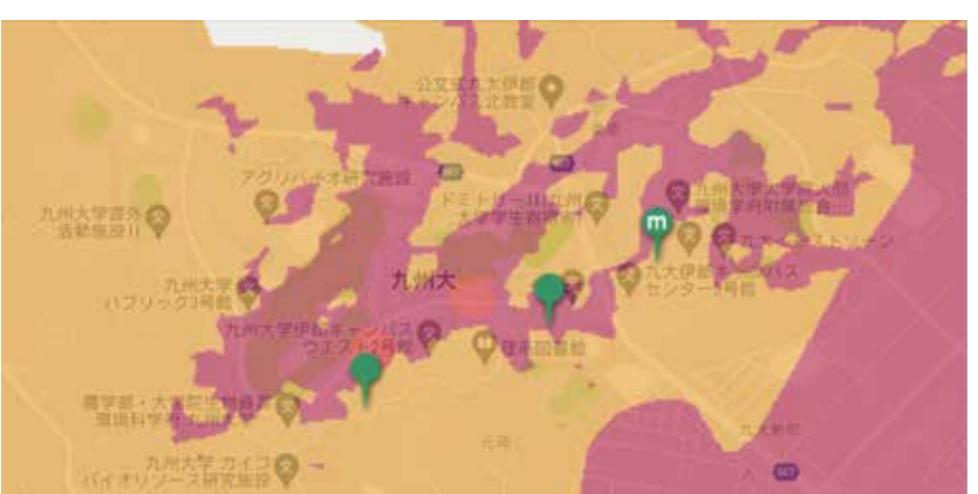
##### 『福岡市』による『土地区画整理事業』

- 貝塚駅周辺を含む脆弱な都市基盤の解消および総合的な交通結節機能の強化（駅前広場整備、東西方向の連絡性向上など）
- 貝塚公園や箱崎中学校などの公共施設の再配置と移転跡地の活用
- 市有地や公共施設が多い中の市の主体的な関与

#### 南エリア(約30ha)

##### 『UR都市機構』による『開発行為』

- 九州大学は、早期の資金確保と適切な土地処分のため、迅速な都市基盤整備が可能な事業者として、UR都市機構を選定
- 福岡市は、UR都市機構による都市計画道路等の「直接施行制度」を活用



■ 5Gエリア(ミリ波) ■ 5Gエリア(Sub6) ■ LTEエリア ■ 5G利用可能スポット(ミリ波対応) ■ 5G利用可能スポット

▲ 学内サービスエリアマップ(R3.10月時点) 出典:NTTドコモホームページ

# 新型コロナウイルス感染症への対応

## 九州大学病院の新型コロナウイルス感染症への取組

- 福岡地域の新型コロナウイルス感染症診療に関わり、その感染制御に直接貢献すること。
- 九州大学病院に求められている様々な難病に対する先進医療や高度医療を行うための機能を維持し、通常医療の「最後の砦」としての役割を確実に果たすこと。

これらを重要な使命と認識し、病院職員が一丸となり、新型コロナウイルス感染症への様々な対応を行ってきました。そして、これまでに重症患者を含む多くの患者を受け入れ、福岡県における新型コロナウイルス感染症の診療体制堅持等に大きな貢献を果たしております。

### 主な取組

#### 新型コロナウイルス専用病床の確保

通常の診療棟から離れた建物内に、適切なゾーニングのもと、新型コロナウイルス感染症患者専用の病床を数十床単位で確保いたしました。さらに、重症患者の増加を受け、令和3年5月には救命ICUをコロナ専用病棟とし、受入病床を増床し受入体制を拡充しております。救命救急センターを中心とした医療チームを配置し、各患者さんの症状に応じた適切な治療を行っております。

#### 院内感染防止対策

- PCR検査機器の増設等検査体制の強化を行い、術前PCR検査、抗原検査を実施しております。
- 発熱スクリーニング外来を設置し、発熱者を診療する場所の集約化を行っております。
- 外来棟玄関等において、サーモグラフィーによる来院者の体温チェックを実施しております。

#### 地域医療機関・地方自治体等への人材派遣

感染症指定医療機関へ医師を派遣し、地域医療に貢献しております。また、政府の要請を受け、感染拡大による医療提供体制の逼迫が続いている大阪府に対し、令和3年4～5月にICUでの経験を有する看護師5名を派遣しました。看護師（感染管理認定看護師）を軽症者等の県内宿泊療養施設へ派遣し、JMAT（日本医師会災害医療チーム）職員等に対し、防護服の着脱指導、

感染防御に関する指導を実施いたしました。福岡県における必要な医療体制を維持するための調整へ本院感染症医療専門医や救命救急専門医が参加しています。福岡市および福岡市医師会からの要請を受け、福岡市が実施するワクチン集団接種に対し、医師および歯科医師を派遣し、ワクチンの早期接種完了に貢献しています。

#### 体外式膜型人工肺(ECMO)の増設・人材育成

ECMOは重症患者に対する集中的治療に一定の効果のある治療手段です。重症患者の受け入れ体制を整備するため、ECMOを増設いたしました。しかしながら、ECMO治療は専門性が非常に高く、人材育成が喫緊の課題となっております。本院では、ECMO関連学会への積極的参加、院内スタッフ向け講習会の開催等による人材育成も同時に進めております。

#### 福岡市立学校における感染症対策をサポート

本院グローバル感染症センターは、令和2年7月より、市立の学校における新型コロナウイルス感染症対策について、学校現場からの相談に対し、医学・疫学に関する専門的見地から、日常の感染予防対策や感染者発生時の対応について助言などを行い、迅速に学校現場をサポートしています。

病院ご利用のみなさまの、入館時のマスク着用・手指衛生の徹底や入院患者さんとの面会制限等の感染対策へのご理解ご協力により、特定機能病院としての医療体制を維持することができ、心より感謝を申し上げます。引き続き、最先端医療を提供できる「地域医療の要」として、みなさまが安心して暮らせる地域づくりに貢献できるよう尽力してまいります。

新型コロナウイルス感染症患者受入れの様子▶



## 新型コロナワクチン「職域接種」の実施

九州大学では、地域の負担を軽減し、接種の加速化を図るため、本学の学生や教職員等を対象としたワクチン接種を大学所属の医師、歯科医師及び看護師や薬剤師等の医療従事者によって実施しました。

ワクチン接種は、社会的な集団免疫の獲得を進めるため、重要な役割を担っています。新型コロナウイルスの変異株により、若年層でも重症化するケースも多い中、対面による教育研究活動における感染リスクを低減し、多様な修学機会を確保するためには、本学のコミュニティにおいても集団免疫を獲得していくことが前提となります。一人でも多くの学生・教職員がワクチン接種を受けることで、感染の拡大及び重症化を防ぎ、本学の学生・教職員の生命と健康を守ることにも、通常の教育研究活動に戻っていくことにも繋がります。

対象者は本学の学生・教職員のみならず、近隣の大学の学生・教職員で、留学や海外での研究活動のために渡航に向けて、所

属大学から新型コロナワクチン接種の依頼があった者や、関係事業者（専ら本学の敷地内で営業・勤務する事業者（生協等））も含め、6月28日から7月28日までに1回目、8月2日から31日までに2回目のワクチン接種を行い、約16,000人に対してワクチン接種を実施しました。



▲接種後状態観察会場の様子

## With & Beyond コロナ時代における学生のための安心・安全プラン

本学では、学生の皆さんがあ安心して大学で過ごせるよう「With & Beyondコロナ時代における学生のための安心・安全プラン」を策定しました。学修機会の確保と感染対策を両立するための

工夫を行うとともに、コロナウイルス感染拡大防止の観点から来学出来ない学生にも配慮した上で、遠隔授業と対面授業を併用し、質の高い教育を提供していきます。

### 感染防止対策

- ソーシャルディスタンスの徹底  
通学バスの混雑回避のための「バス停混雑度可視化システム」の充実 等
- 除菌・消毒、ウイルス対策  
講義室空調設備へのウイルス対策フィルターおよび換気のためのサーキュレーターの設置 等
- サーモグラフィー等の設置  
学生が集まる図書館・学生寮へのサーモグラフィーの設置 等

### 学生支援の充実

- 学生窓口AIシステムの導入  
学生の利便性向上のため、キャンパス外から24時間オンラインでの問い合わせを可能とするAIシステムの構築
- 英語能力試験奨励制度  
意欲ある学生の語学力向上や留学に向けた取組を支援 (IELTS、TOEFL iBTの受験料負担)
- 学生キャリア・就職支援  
オンラインまたは対面による柔軟なキャリア・就職相談 等

### 教育環境の充実

- ICTを活用した学習支援  
本学独自開発のM2B(みつば)学習支援システムを利用したオンラインでの授業を実施し、そこで蓄積した教育ビッグデータを活用した学習支援を推進 等
- 国内での異文化学習  
立命館アジア太平洋大学との連携による、海外経験を補うための国内で異文化学習が可能となる教育モデルの開発



▲オンライン授業の様子

# 学生・受験生・保護者のみなさまへ

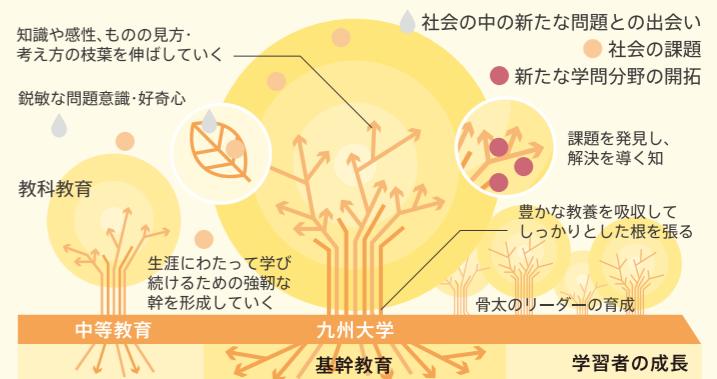
実り多き学生時代のために、  
ひとりひとりサポートします。



## 自立的な学ぶ力の涵養

生涯にわたり自立的に学び続けるアクティブラーナーを育成する「基幹教育」を実施しています。具体的には『基幹教育セミナー』、『課題協学』に代表される文理融合クラスでの教育です。授業では、ものの見方・考え方・価値観の異なる人と多様な知を交流し活動する能力、差異を認め合う共感性、そして問題解決へと導くコミュニケーション能力が磨かれています。さらに、異なる学部の仲間との自己省察を通じて主体的な学び方を身につけ、それぞれに生涯にわたって学び続ける強靭な幹が育まれています。

### 基幹教育による成長モデル



## 安心して学ぶための経済支援

経済的理由により授業料等の納付が困難で、学業優秀と認められる学生を対象に入学料や授業料を免除する制度があります。加えて、本学独自の経済的支援として、優れた志を持ち学業成績が優秀な学部学生を対象とした「山川賞」や「学生交流協定に基づく交換留学生の授業料不徴収」など、学生に対する経済的支援を積極的に導入しています。また、中本博雄様(福岡市)のご寄附により創設された「中本博雄賞」による修学支援では、成績優秀であるものの、経済的に厳しく進学が困難な高校生等が、入学前に奨学生候補者として採用され、入学後は奨学金返還の心配やアルバイトに明け暮れることなく、安心して学業に専念することが可能となりました。本学では、引き続き、学生に対する積極的な経済支援に取り組みます。(関連情報P48)

### 主な本学独自の経済的支援

- 授業料、入学料の免除
- 大学生の教育補助業務に対する手当
- 山川賞、中本博雄賞
- 学生交流協定に基づく交換留学生の授業料不徴収
- 博士課程学生の研究補助事業に対する手当
- 学士課程(国際コース)の成績優秀者に対する奨学金

## 博士課程学生の研究をサポート

「九州大学大学院研究支援奨学金」制度等の本学独自の奨学事業による経済的支援や、独自のキャリア支援に加え、国の補助事業である「卓越大学院プログラム」、「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」及び「次世代研究者挑戦的研究プログラム」による、博士課程学生に対する経済的支援の実施及び企業との連携によるインターンシップの実施等、博士課程学生のサポートを積極的に行い、生活費や研究費等の心配をすることなく研究に打ち込める環境の整備や修了後のキャリアパスの確保に取り組んでいます。



▲マス・フォア・イノベーション卓越大学院のワークショップの様子

## 九州大学独自のアプリ・LINEサービス

**キャンパス混雑度情報可視化システム**

**itocon**  
いとこん

キャンパス混雑度情報可視化システム「itocon(いとこん)」は、伊都キャンパスに通う学生・教職員が密を回避しやすいように、九大学研都市駅および伊都キャンパス内のバス停、計11カ所と、伊都キャンパス内の食堂9カ所の混雑度をリアルタイムに提示するシステムです。itoconでは、駅やバス停の混雑度情報が1分ごとに更新されるとともに、過去のバス発車時刻時の混雑度を確認することができます。2021年3月26日からは、九大学研都市駅の混雑度については予測も表示されるようになっています。



開発者：九州大学大学院システム情報科  
研究室(荒川豊教授)、九州大学持続的共進化地域創成拠点(COI)

**QRコード**

**学生向けヘルス支援スマホアプリ**

**Q-Mental APP**

学生向けのメンタルヘルス支援スマホアプリ「Q-Mental APP」は、毎日の運動・食欲・睡眠時間・気分を記録する「きろく」、メンタルヘルス疾患のスクリーニングが可能な「しんだん」、「きろく」の結果に基づきコメントを表示する「マイカルテ」、メンタルヘルスのことで困ったときの相談先を表示する「そうだん」などの機能を搭載しています。九大生向けに作成していますが、学外の方もインストールすることは可能です。また、Q-Mental APPの相談先をカスタマイズすることで、九州大学以外の大学でも活用することができます。



開発者：  
九州大学キャンパスライ  
フ・健康支援センター  
樋谷介准教授

**QRコード**

**[新入生] 入学前の疑問をLINEで解決**

**九大学務 LINE**  
(β版)

入学予定の新入生向けに、窓口AIシステムとして、LINEを活用した「九大学務LINE」のβバージョンをリリースしています。本LINEは、授業料免除/入学金免除、各種奨学金制度や入寮手続きなど、新入生から毎年よくあるお問い合わせを自動応答チャットボットにてスムーズに解消するサービスです。



※β版のため、質問対象も限定されたものになりますが、今後、在学生も含め、対応窓口を拡大していく予定です。ご期待ください。

お問い合わせ：学務部学務企画課総務係  
電話：092-802-5925  
Mail：gagsomu@jimu.kyushu-u.ac.jp

## インクルージョン支援の推進

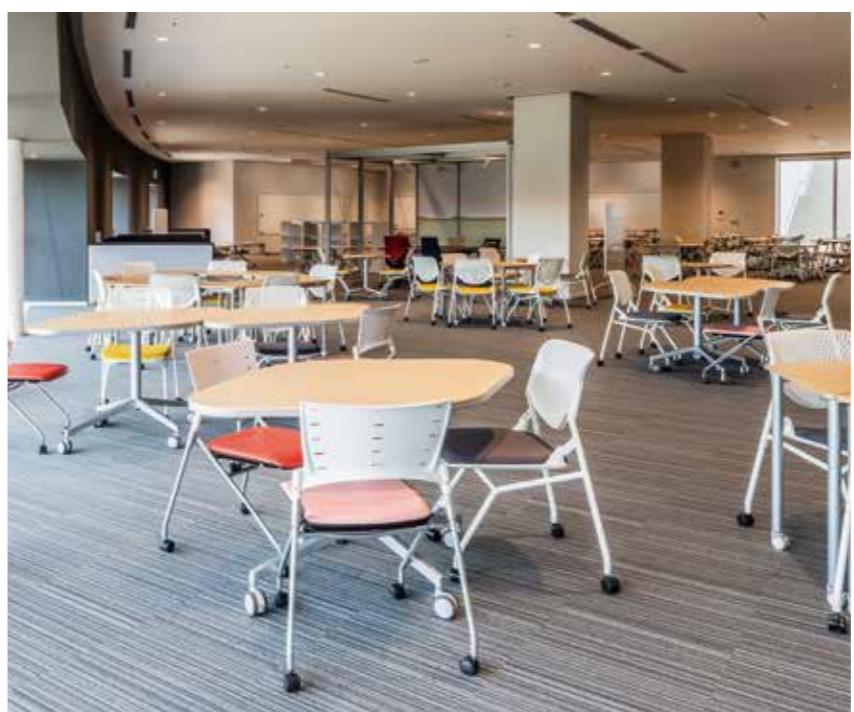
障害者(慢性疾患・難病を含む)の平等な修学・就労の機会を保障するため、物理的環境への配慮、意思疎通の配慮、ルール・慣行の柔軟な変更の3つの観点から、個々人に合わせた社会的障壁の除去を行う合理的配慮を提供しています。また、共生社会での人材育成として、アクセシビリティ・リーダー育成プログラムを実施し、学内で支援者として活動するピア・サポートの育成にも取り組んでいます。ピア・サポートは、支援活動や、啓発活動、研修活動をとおして学内の様々なアクセシビリティの向上に取り組んでいます。支援活動の例として、聴覚的情報の取得・理解に困難がある学生等に対して、授業や式典(入学式・学位記授与式)等で、音声情報を文字情報として提供するパソコンノートテイクによる情報保障を行っています。



## 学びを生み出す中央図書館

平成30年10月にグランドオープンした中央図書館は、2万m<sup>2</sup>の面積、約1,400席の座席数、150万冊の自動書庫を含む350万冊の収蔵能力を持つ、全国でも有数規模の大学図書館です。中央図書館では、圧倒的な蔵書により学生の学びと知識の深化を強力に支援します。また、学生の学習形態にあわせて、多彩な利用エリアを準備しています。中でも、活発に議論しながら学習できるアクティブ・ラーニング・スペース「きゅうとうコモンズ」には、可動式のイスやホワイトボードなど学習活動を支えるアイテムを設置し、学生の主体的な学びを創出しています。

その他、図書館では、単に学習の場を提供するにとどまらず、レポートの書き方講座をはじめとした各種講習会の開催や、図書館TA(Cuter)という名のティーチングアシスタントが学習に関する疑問や相談を受ける学習相談デスクを設置するなど、学生の学びを積極的にバックアップしています。



▲きゅうとうコモンズの1,000m<sup>2</sup>におよぶ広いスペースには、講習会スペース、グループ学習室、その他さまざまなエリアがあります。



# 病院ご利用・医療関係者のみなさまへ

患者さんに満足され、  
医療人も満足する医療の  
実現を目指します。



九州大学病院は、110年余りの歴史を持ち、国立大学病院では最大規模の1,400床を超える病床を有し、入院・外来患者数及び高難度手術や臓器移植を含む手術件数などの診療面、臨床研究並びに国際化の取組など、国内屈指の実績を有する大学病院です。

特に、令和2年からのCOVID-19の世界的流行を受けて、重症化患者の受入を中心に、福岡県下のCOVID-19診療においても中心的役割を果たしてまいりました。また、コロナ禍においても安心して切れ目のない医療を受けていただくために地域医療との連携にも力を入れ、地域医療の「最後の砦」として高難度医療の提供を両立させております。

近年では「臨床研究中核病院」として国際水準の臨床研究や

医師主導治験の中心的な役割を担う病院としての活動を推進しているほか、「がんゲノム医療中核拠点病院」として、がんゲノム医療を推進するとともに、広域医療圏拠点としての連携体制構築に向けて事業を展開しております。

さらに、急速に進む国際化への対応として、「国際医療部」の設置や「外国人患者受け入れ医療機関認証制度(JMIP)」の認証取得を行うなど、アジアに近い立地を活かした医療の国際化を推進しています。

今後も、志の高い優れた医療人の育成に努め、先端医療の創出と質の高い診療の提供に尽力し、みなさまの期待と信頼に応える最善の医療を追及してまいります。

## 理念と方針

患者さんに満足され、医療人も満足する  
医療の実現を目指します。

1. 広域医療圏拠点としての連携体制の構築
2. 高度先進医療を支える医学研究の推進
3. 全人的医療を実践する医療人の養成
4. 小児から高齢者まで包括する移行期医療の充実
5. 国際化の推進

## COVID-19から地域医療を守る

本院では、令和2年2月から陽性患者の受入を開始し、福岡県での感染状況を注視しつつ病床を拡充整備し、10月には福岡県より陽性患者を受け入れる重点医療機関と、疑い患者を受け入れる協力医療機関に指定されました。

指定後も、福岡県下の感染状況を踏まえ、受入病床を適時整備・拡大しており、感染第4波を受け、令和3年5月には重症患者用病床を中心に増床を行いました。多い時には1日30名を超えるコロナ患者を受け入れ、福岡地域のCOVID-19診療の中心的役割を担っています。

また、国内の陽性患者確認後早い段階から、本院のグローバル感染症センターや救命救急センターのスタッフを中心に、福岡県コロナ対策調整本部(医療体制等整備担当)などに参加し、軽症者の隔離療養や感染予防対策、地域の救急医療体制維持など、県内のCOVID-19診療体制の確立・維持に貢献しています。

加えて、本院の感染症専門医を感染症指定医療機関へ派遣したほか、軽症者の宿泊療養施設にも医師をはじめ医療スタッフを多数(延べ197人)派遣し、またCOVID-19ワクチン接種の基盤型接種施設に指定されるなど、現在も継続して地域のCOVID-19対策を支えています。

経営面においては、COVID-19の流行という未曾有の危機への対応を最優先したことにより、経営悪化が危ぶまれましたが、ゾーニングやPCR検査体制の確立といった徹底した感染対策を行った結果、令和2年度後半には患者数も徐々に回復し、病院経営を維持することができました。

感染収束が見通せない中、COVID-19対応が病院経営に与える影響もまた長期化することが懸念されますが、地域の中核医療機関として、高難度医療の提供とCOVID-19対応の両面で貢献することができるよう、経営の安定化・効率化をすすめ、地域の医療を守るために全力を尽くしてまいります。



## 別府病院再開発



別府病院は世界最大級の温泉湧出量を誇る大分県別府市に所在し、その時代時代の課題、難問に答えをだすべく研究と診療を行ってきました。設立当初は、わが国の大学では最初の温泉治療に関する附置研究所として、未知であった温泉の効能の研究に挑戦し、次にその研究成果を難治性疾患の治療に応用しました。対象とする疾患は、関節リウマチなどの免疫疾患、慢性心不全、動脈硬化などの循環器疾患、消化器がん、乳がんなど

の悪性腫瘍、白血病などの血液疾患、脊椎脊髄疾患など多岐にわたりました。

このように、時代に応じた研究・診療を行ってきましたが、現在の建物は竣工から45年以上が経過し、現在の医療提供体制や患者さんのニーズに合わなくなってきたこともあり、別府病院に期待される役割を最大限発揮できるよう、令和3年4月から本格的に再開発事業が始まりました。

### 1 病院

従来の内科、外科、整形外科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科に新たに婦人科を加えた7診療科、急性期病床120床からなる新病院となります。産婦人科は平成18年に惜しまれながらいったん閉じられましたが、別府市医師会や大分県産婦人科医会からの強い要望を受け、本院産科婦人科の支援の下で新病院開発にあわせて婦人科を開設する予定としています。

また、病棟は既存の建物も一部活用しながら再整備をすすめる計画としており、新規病棟は病室にいながらにして別府湾を一望できるコンセプトで設計しています。

#### 施設整備計画(ロードマップ)



### 2 敷地利用

平成28年に国立大学法人法が改正され、法人の保有する土地を民間などの第三者に貸し出す際の条件が緩和されました。この制度により、土地の有効活用を別府市と緊密に連携して行う計画を進めています。

今後は、土地活用についての市場調査等を踏まえて、公募要項案を策定します。その後、文部科学大臣より認可を受け、企画競争によって事業者を決定する計画です。



損益計算書(病院セグメント) (単位:百万円、単位未満切捨)

事項	令和元事業年度	令和2事業年度	増減
<b>■経常費用</b>			
業務費	56,469	57,138	669
教育経費	12	15	3
研究経費	997	772	▲225
診療経費	34,357	35,008	651
受託研究費等	913	690	▲223
受託事業費	224	230	6
人件費	19,964	20,421	457
一般管理費	314	312	▲2
その他	200	136	▲64
<b>■経常収益</b>			
運営費交付金収益	4,196	4,049	▲147
附属病院収益	50,250	50,059	▲191
受託研究収益等	1,253	1,082	▲171
受託事業等収益	228	236	8
寄附金収益	336	254	▲82
補助金等収益	574	2,906	2,332
施設費収益	24	0	▲24
資産見返負債戻入	274	271	▲3
その他	360	376	16
(経常損益)	514	1,651	1,137
<b>■臨時損失</b>			
	427	1	▲426
<b>■臨時収益</b>			
	200	13	▲187
(臨時損益)	▲227	11	238
<b>■当期純利益</b>			
	286	1,639	1,353
<b>■目的積立金取崩額</b>			
	0	0	0
<b>■当期総利益</b>			
	286	1,639	1,353

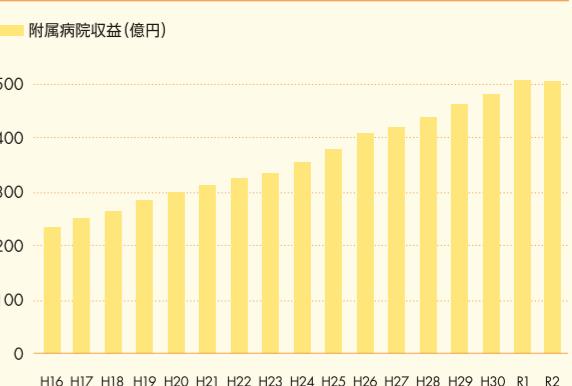
※単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

### 【令和2年度の概要】

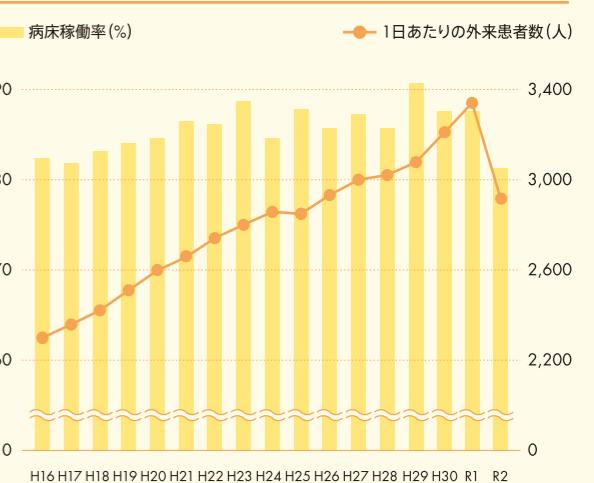
COVID-19の流行に伴い診療制限を実施したこともあり、病床稼働率の低下及び外来患者数の減少を招き、附属病院収益の減少が見込まれました。一方で、個人防護具等の使用増加などにより、診療経費の増加も見込まれ、年度当初は大幅な経営悪化が懸念されました。

しかしながら、年度途中からCOVID-19診療と通常診療を両立させたことで前年度と同規模の附属病院収益を確保し、また、COVID-19診療への貢献に対する財政支援もあり、経営悪化を解消することができました。

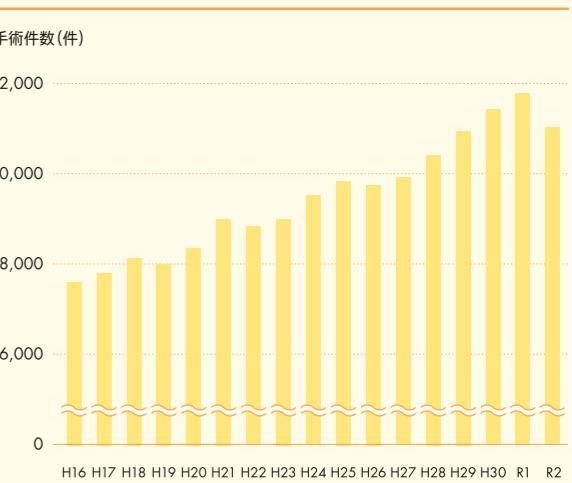
### 附属病院収益



### 病床稼働率及び1日あたりの外来患者数



### 手術件数



# 企業・研究者のみなさまへ

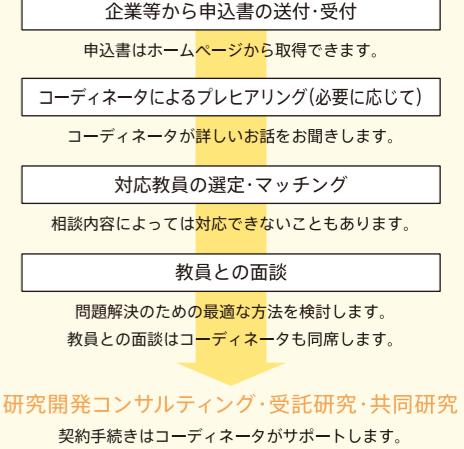
社会の豊かな発展のために、  
本学の研究シーズを  
ご提供します。



## 企業等のイノベーション創出を応援します

学術研究・産学官連携本部では、企業等外部機関からの技術的な課題にお答えするための相談窓口を常時開設しており、令和2年度は、107件のご相談を頂きました。お申し込みいただければ、専門スタッフが詳しい内容をお聞きし、課題解決のために最適な研究者の紹介及び最適対応（研究開発コンサルティング、受託研究・共同研究、他機関の紹介等）をご提案します。

また、昨今の産業界からの多様な要請に応えるため、令和2年度より「研究開発コンサルティング」制度を運用開始しています。この制度では、これまで実施してきた技術評価・知見の提供等や研究上の助言や指導に加え、先端技術調査や共同研究のプレ検討、产学でのコンセプト共創（企業に対し新事業の企画や実現に向けた計画立案を支援）などの要請も受け入れることができますので、お気軽にご相談ください。



## 大学発ベンチャーを支援します

### 九大発ベンチャーNOVIGO Pharma株式会社が誕生

NOVIGO Pharma株式会社は、医療分野において、次世代経皮吸収技術の社会実装を目指して設立された企業です。社名の「NOVIGO」はエスペラント語で「革新」という意味に由来し、革新的な医療を普及したいという気持ちを込めて名付けてあります。

本技術は、第II期九大ギャップファンドや国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）のSTART事業に採択され、ベンチャーキャピタルや製薬企業と共に、市場参入に向けた研究開発を行っていました。

本技術を生み出した工学研究院の後藤雅宏教授は、同社の技術アドバイザーを務めており、代表である石濱航平氏と共に、本成果を九州大学発技術として医療へ貢献して参ります。

現行の医療行為の殆どが病院へ行かなければならぬ上、薬によっては日に何度も自己注射が必要な製剤も存在しており、これによつて多くの時間を要すため、多忙な現代人に合った医療の改善策を創出する必要があります。しかしながら、NOVIGO Pharma株式会社が目指す「次世代型経皮吸収製剤」は、医療に対する大きな可能性を秘めています。

同社のコアとなる技術は、患者のQOLが著しく低く、技術的に経皮投与が困難であった薬剤を対象に経皮製剤化を行う技術で、医療従事者の手を借りることなく簡易的に薬剤の投与ができる世界を実現します。このような九大発技術を応用することで、医療行為を身近にし、人々に質の高い生活を贈ることを目指しております。



▲皮膚から薬を吸収させる経皮製剤

**NOVIGO**  
Medical Innovation

### 九大ギャップファンドプログラム

本学独自の学内プログラムとして、平成29年度より実施しています。

今年度で第5期を迎えるこれまで毎年10名程度の教員が、本資金を活用して事業化検証に取組んでいます。

既に13件が会社を設立し、その他の事業シーズも外部資金獲得や事業会社・金融機関等との連携など事業化に向けた活動を積極的に行っております。



▲ギャップファンド審査会の様子

## 「組織」対「組織」の産学官連携

企業の個々の研究開発ニーズを解決するだけでなく、各種の要素研究の融合を図りながら独創的なコンセプトを創出し、産学の両者が共同して国際競争力に優れた最先端の実用化技術を開発することを目的とした「組織対応型連携」を実施しています。組織対応型連携では、当該研究目的に沿う最適な研究グループを広く全学的に組織し、企業と契約を結びます。令和2年度には、新たに2件の連携契約を締結し、令和3年4月時点で79におよぶ企業、国、自治体、研究機関等と連携して研究開発を行っています。また、伊都キャンパスおよび日本橋サテライト（東京都中央区）において、大学のシーズを紹介するイベント等を開催し、企業との連携拡大や大型共同研究の増大などを通じた研究の活性化や高度化の促進に取り組んでいます。

## 研究機器・設備の共用

本学の研究・教育の国際競争力向上等に資することを目指し、研究機器・設備の共同利用を全学的に促進しています。平成30年度に「研究機器・設備共用のための全学的なプラットフォーム」を構築し、平成31年4月にポータルサイト（ShareAid）を開設しました。現在、学内44研究組織の参画の下、研究機器・設備の共用に取り組んでいます。

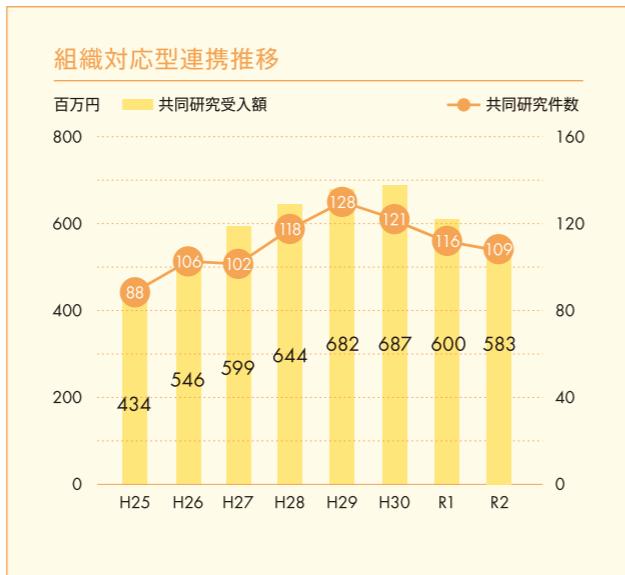
ShareAidでは共用機器・設備の情報を検索することができ、学外者も利用可能です。

機器の利用に関しては機器詳細ページをご確認下さい。九州大学 研究機器・設備共用支援ポータルサイト  
[ShareAid](https://shareaid.kyushu-u.ac.jp/)  
<https://shareaid.kyushu-u.ac.jp/>

### 学術研究及び産学官連携支援のワンストップ窓口

## 学術研究・産学官連携本部

研究活動をサポートする人材を組織的に配置し、学術研究及び産学官連携活動に資する情報提供と種々の外部資金獲得等に繋がる提案や、知的財産等にまつわる活動を含めた支援体制の強化を図るために、平成27年4月に学術研究・産学官連携



パートナーとしての九州大学

## 地域のみなさまへ

## 「発想する空間」フジイギャラリー

フジイギャラリーは、イフジ産業株式会社取締役創業者会長 藤井徳夫様（本学法医学部昭和39年卒業）のご寄附により、令和2年10月に竣工しました。このギャラリーは、本学の研究成果の社会還元の一助として知的交流の促進を主な目的としており、本学の内外の研究教育活動に寄与してまいります。竣工後の「枯らし」期間を経て、令和3年7月より学内者向けにプレオープンし、令和4年5月に本オープンを予定しています。本オープン後には、是非足を運んで頂き、九州大学ならではの科学と芸術がありなす展示や体験をお楽しみください。



フジイギャラリー▶

## 地域に開かれた伊都診療所を開設

平成31年1月31日開所した伊都診療所に隣接して、令和元年11月1日には薬局も開設されました。伊都診療所は、「九州大学アクションプラン2015」の大きな柱のうち「学生・教職員が誇りに思う充実したキャンパスづくり」の取組の一つとして、設置されました。伊都キャンパス周辺に医療機関が乏しい現状において、学生・教職員が身体的・精神的に健康な状態を保つための環境の整備であり、また、地域住民等にも開かれた伊都キャンパス周辺の初期的な一次医療機関として機能し、必要に応じて九州大学病院や学外医療機関の専門医に患者を紹介する等、地域住民等の健康を守る役割も担い、社会への貢献を行っていきます。



▲伊都診療所

伊都診療所では、インフルエンザの予防接種、  
令和3年度は新型コロナワクチンの接種も行っています。

予約制

- インフルエンザ予防接種 092-802-6580
- 新型コロナワクチン接種 URLより予約 <https://itoclinic.kyushu-u.ac.jp/news/detail/masterid/48>

お問い合わせ

学術研究・産学官連携本部

詳細は学術研究・産学官連携本部ウェブサイトをご覧ください。  
 TEL 092-802-5127 九大産学官 検索



# 同窓生のみなさまへ

## 同窓生との連携協力 九州大学同窓会連合会・九州大学CEOクラブ

部局同窓会、地域同窓会等では、学生の就活支援や、若手社会人の勉強会など、九州大学ネットワークを活かした取組が多くみられるようになってきました。これらの同窓会組織のうち、約40団体を会員とする九州大学同窓会連合会では、各同窓会間や本学と情報交換を重ねながら各同窓会の運営や連携について模索しています。また、平成31年2月に会員制組織として再構築した、同窓生で企業のCEOを会員とする「九州大学CEOクラブ」では、総会等を通じて、各会員間のネットワーク拡大・強化や、会員による九州大学の教育研究活動の活性化等を目指し活動しています。ご関心のある同窓生で企業のCEOの方は、加入をご検討ください。



▲東京同窓会サマーフェスタ  
九州大学から東京同窓会への感謝状贈呈の様子



▲九州大学CEOクラブ

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/graduate/alumni/>

## 世代を超えた交流活動 アカデミックフェスティバル

毎年秋にアカデミックフェスティバルを実施しています。トークショー、交歓会、伊都キャンパス見学ツアー、高大連携の成果発表会などの催しに、同窓生、在学生、教職員、高校生、地域の方々に参加いただいております。本事業を通じ、本学との結びつきを一層深まることを期待しています。

令和3年度は各所から視聴参加いただけるWeb企画(11月16日~29日)としました。



▲アカデミックフェスティバル2021の様子  
[https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/graduate/academic\\_festival/](https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/graduate/academic_festival/)

## 九大祭・芸工祭

九大祭・芸工祭は、11月上旬に開催される九州大学最大級の行事で、例年、来場者数は2万人を超え、普段は静かな学びの場であるキャンパスもこの期間は活気溢れるにぎやかな場へと姿を変えます。九大生による教室企画やステージ企画に加えて、高校生向けガイダンス企画など、多くの方々に楽しんでいただける充実した企画の数々となっております。

令和3年度はオンラインにて開催しました。



▲九大祭の様子



▲芸工祭の様子

## 九大とつながるメールマガジン～九州大学生涯メールアドレスサービス

本学では、同窓生等を対象に、転送専用メールアドレスの付与及び本学の研究成果、講座、講演等を配信するメールマガジン「Qdai-mail通信」サービスを行っています。転送専用メールアドレスの付与やメールマガジン配信をご希望の方は、以下のURLから申込願います。

[https://kyudai.jp/entry\\_request.cgi](https://kyudai.jp/entry_request.cgi)



## 中村哲先生の志を次世代に継承する 九大プロジェクト



▲中村哲医師メモリアルアーカイブ

遠いアフガンの地で35年に渡り医療・水事業・農業に心血を注いでこられた故・中村哲医師(1946-2019、九州大学医学部卒、九州大学特別主幹教授)の意志と仕事を次代に伝えるため、九州大学では2021年3月、氏の活動母体であったペシャワール会との相互協力協定を締結し、同会協力の下、「中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト」を立ち上げました。プロジェクトの

核として、2021年3月、附属図書館内に「中村哲医師メモリアルアーカイブ」を設置し、2021年度からは、基幹教育総合科目の中に「中村哲記念講座」を開設しました。今後、関連イベントの開催や新たな教育・研究の取り組みなど、学内外との連携によりプロジェクトを推進していきます。

[https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/pj\\_nakamuratsu](https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/pj_nakamuratsu)



### 中村哲医師 メモリアルアーカイブ

中央図書館きゅうとコモンズ内に、2021年3月、展示スペース「中村哲医師メモリアルアーカイブ」をオープンしました。本スペースは、「一人称で語る」をコンセプトに、映像、グラフィック、年表、書籍等で氏の言葉と活動を伝え、ガラススクリーンには、本学の学生らが読書会を重ねる中で選んだ言葉が綴られています。2021年3月21日に開催しました「中村哲医師メモリアルアーカイブ オープニングイベント」の様子をYouTubeより公開しています。



<https://youtu.be/l6YE7bUi1cc>

### 中村哲著述アーカイブ

附属図書館では、九州大学学術情報リポジトリQIR上に「中村哲著述アーカイブ」を構築し、2021年3月公開しました。氏が著した著書、報告書類、新聞・雑誌記事、講演記録、写真、映像等さまざまな資料をデジタルデータの形で収集・保存し、インターネット公開することにより、貴重な著述の散逸を防ぐとともに、世界中からの永続的なアクセスを可能とします。



<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/nakamuratsu>

### 中村哲記念講座 －中村哲先生の想いを繋ぐ－

全学部の1年生を主として対象とする基幹教育総合科目において、2021年度夏学期から「中村哲記念講座」を開講しました。氏と一緒に活動してきた方などの講演のほか、「中村哲医師メモリアルアーカイブ」や「中村哲著述アーカイブ」を活用した自主学習やグループワークなどを行う中で、氏がやつてきたことの意味を理解し、それと同じ意味を持つことを実行するための考え方やヒントを学びます。



[https://note.com/dr\\_nakamura/](https://note.com/dr_nakamura/)

# 九州大学の活動を支える財務状況

## 財務諸表

国立大学法人は、決算書(財務諸表等)を作成し、翌年度の6月30日までに文部科学大臣へ提出し、承認を得ることとされています。

<b>1 貸借対照表</b>	3月31における財政状態を明らかにするものです。
<b>2 損益計算書</b>	4月1日～3月31日の1年間の運営状況を明らかにするもので、費用、収益や利益の発生状況を表します。
<b>3 キャッシュ・フロー計算書</b>	4月1日～3月31日の1年間の資金の流れを一定の活動別に区分して表します。
<b>4 利益の処分又は損失の処理に関する書類</b>	貸借対照表で算定された当期末処分利益と損益計算書で算定された当期総利益の処分の内容を表します。
<b>5 国立大学法人等業務実施コスト計算書</b>	教育・研究・診療等の業務運営に要した費用(コスト)のうち、国民の税金で賄われている金額を表します。
<b>6 附属明細書</b>	上記1～5の書類の内容を補足します。
<b>7 事業報告書</b> *	法人の概要、財務情報と事業内容を関連表示したものです。
<b>8 決算報告書</b> *	年度計画における予算額と実際に執行した決算額を対比することで、予算の見積りとその後の事業の推移を明らかにするものです。

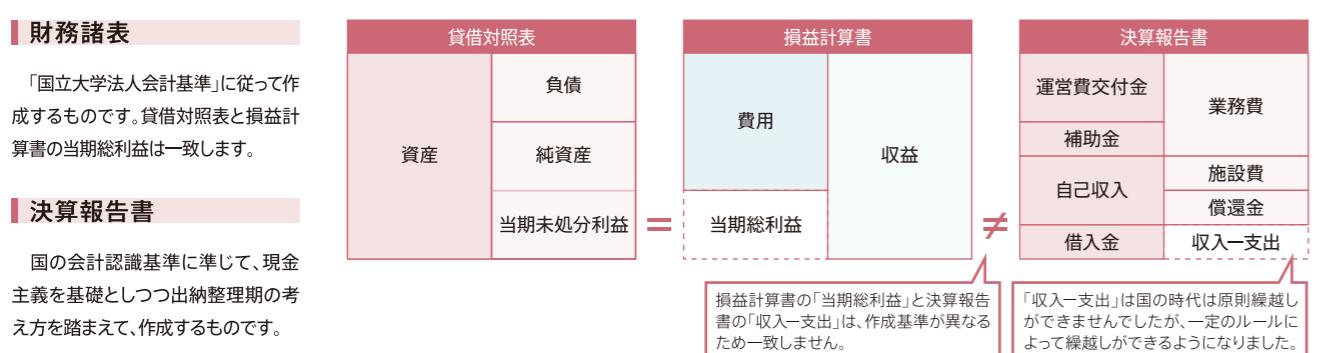
\* 1～6が財務諸表です。7及び8は財務諸表に添付して提出することとされている書類です。

各事業年度の財務諸表等は、以下のホームページにて公表しています。

九州大学ホームページ>九州大学について>公表事項>財務諸表等 [https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/financial\\_statements/](https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/financial_statements/)

## 作成基準が異なる二通りの決算書の作成

財務諸表と決算報告書は、作成基準が異なります。



## 国立大学法人会計基準の特徴について

「国立大学法人会計基準」は複式簿記、発生主義という点では企業会計原則と同じですが、次のような国立大学法人の特性を踏まえて、企業会計原則とは異なる特有の会計処理を行っています。

## 国立大学法人の主な特性

- 公共的な性格から利益獲得、独立採算を前提とせず、国から財源措置があります。
- 建物整備は国が決定し予算措置される等、大学単独の判断で意思決定が完結しない場合があります。
- 民間企業のような資本主を制度上予定せず、利益が配当されることはありません。

## 国立大学法人特有の会計処理

### 収益の認識

運営費交付金、授業料、寄附金、補助金などは研究教育等の業務を実施する義務があることから、受領した際に一旦債務(負債)に計上します。その後、業務実施に伴い収益に振り替える会計処理をします。

例:運営費交付金で業務を実施

運営費交付金受入	貸借対照表(B/S)
現預金 100	運営費交付金 債務 100

年度決算	
①(損益が均衡する場合)	②(利益が生じる場合)
損益計算書(P/L)	損益計算書(P/L)
教育経費 100	運営費交付金 収益 100

年度決算①…通常どおり業務を行えば、損益が均衡します。 年度決算②…費用が抑えられれば、利益が発生し当期末処分利益となります。

○運営費交付金債務の収益化基準

期間進行基準: 時の経過に伴い業務が実施されたとみなして運営費交付金債務を収益化する基準(原則)

業務達成基準: 業務の実施に伴い運営費交付金債務を収益化する基準(プロジェクト研究等)

費用進行基準: 費用発生額と同額の業務が実施されたとみなして運営費交付金債務を収益化する基準(退職給付金等)

### 損益均衡

運営費交付金、授業料、寄附金、補助金などで固定資産を取得した場合、受領時の債務(負債)を「資産見返負債」に振り替えます。固定資産の減価償却に伴って資産見返負債は資産見返負債戻入という収益に振替えられ、これらの処理により資産・負債・収益・費用が均衡します。

例:運営費交付金で資産を取得

運営費交付金受入	貸借対照表(B/S)
現預金 100	運営費交付金 債務 100

年度決算(減価償却)	
貸借対照表(B/S)	資産取得
固定資産 80	資産見返負債 80
損益計算書(P/L)	資産見返負債戻入 20

### 損益に影響しない会計処理

施設費等は、施設等の更新が必要なときに出資者である国が責任をもって措置するものであることから、費用として認識しないこととなっています。したがって、償却資産を取得した場合、取得価格を資本剩余金(純資産)に振替え、減価償却時には減価償却費ではなく損益外減価償却累計額(資本剩余金のマイナス科目)を計上して、資本剩余金を減少します。

施設費受入	貸借対照表(B/S)
現預金 100	預り施設費 100

年度決算	
貸借対照表(B/S)	資産取得
固定資産 100	資本剩余金 100

### 目的積立金と積立金

未処分利益のうち、経営努力により生じた利益であると文部科学大臣から承認を受けた金額は目的積立金となり、中期計画で定められた剩余金の使途の範囲内において、翌年度以降に使用することが可能になります。

未処分利益	
経営努力で発生した利益 (現金の裏づけのある利益)	会計処理上の利益 (現金の裏づけのない利益)
目的積立金 (翌事業年度以降に使用)	積立金 (損失補填にのみ使用)

国立大学法人会計基準の特徴については、以下のホームページにも解説を掲載しています。

九州大学ホームページ>九州大学について>公表事項>国立大学法人会計基準の特徴について [https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/as\\_characteristic/](https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/as_characteristic/)

九州大学の活動を支える財務状況

# 貸借対照表 B/S (Balance Sheet)

科目	H30事業年度	R1事業年度	R2事業年度	前年比
<b>【資産の部】</b>	<b>464,492</b>	<b>455,198</b>	<b>451,524</b>	<b>▲3,673</b>
I 固定資産	411,020	401,813	393,700	▲8,113
1 有形固定資産	399,090	386,310	375,012	▲11,297
土地	185,097	181,914	177,810	▲4,103
建物、構築物	166,901	159,485	153,519	▲5,966
設備(機械装置、工具器具備品、医療用機器)	25,701	23,137	22,399	▲737
建設仮勘定	1,617	2,074	1,689	▲384
その他	19,772	19,699	19,593	▲105
2 無形固定資産	696	684	585	▲99
3 投資その他の資産	11,233	14,818	18,102	3,283
現金及び預金	41,604	35,136	39,262	4,125
医業未収入金	9,149	9,154	10,509	1,355
有価証券	700	6,699	5,621	▲1,078
その他	2,017	2,394	2,430	36
<b>【負債の部】</b>	<b>186,416</b>	<b>180,521</b>	<b>179,988</b>	<b>▲532</b>
I 固定負債	139,988	131,150	128,471	▲2,678
固定資産見返負債	49,352	47,414	47,674	259
大学改革支援・学位授与機構債務負担金	7,905	6,262	4,840	▲1,421
長期借入金	69,629	68,771	68,502	▲269
長期リース債務	5,324	4,162	2,857	▲1,305
その他	7,776	4,539	4,597	57
II 流動負債	46,427	49,370	51,516	2,146
運営費交付金債務	3,288	4,495	4,201	▲293
寄附金債務	15,778	16,548	17,313	764
一年以内償還予定大学改革支援・学位授与機構債務負担金	1,731	1,642	1,531	▲110
一年以内返済予定長期借入金	2,887	2,793	3,135	341
未払金	14,590	13,861	16,479	2,617
リース債務	1,576	1,560	1,608	48
その他	6,576	8,469	7,247	▲1,221
<b>【純資産の部】</b>	<b>278,076</b>	<b>274,676</b>	<b>271,535</b>	<b>▲3,141</b>
I 資本金	146,151	146,151	146,151	-
II 資本剰余金	120,488	116,136	111,478	▲4,657
III 利益剰余金	11,436	12,389	13,905	1,516
前中期目標期間積立金	6,587	6,586	6,586	-
教育研究診療等充実積立金(目的積立金)	1,538	2,257	3,488	1,230
積立金	1,510	2,109	2,314	204
当期未処分利益	1,800	1,435	1,516	81
(うち当期総利益)	(1,800)	(1,435)	(1,516)	(81)

(単位:百万円、単位未満切捨)

科目的説明	
建設仮勘定	大学改革支援・学位授与機構債務負担金
建物や構築物は、着工から竣工まで一定の時間がかかるため、建設費用の一部を先に支払うことがあります。この前払い相当額を建物等が竣工するまでの間、一時的に計上しておく科目です。	長期借入金
旧:国立学校特別会計から国立大学財務・経営センター(現:大学改革支援・学位授与機構)が承継した財政融資資金借入金で、国立大学法人等が債務を負担することとされた相当額の残高です。借り入れたお金は、病院の診療施設、最先端医療機器の整備などに使用しています。	国立大学が法人化された平成16年4月以降に、大学改革支援・学位授与機構や民間金融機関から借り入れたお金の残高です。大学改革支援・学位授与機構から借り入れたお金は病院の診療施設、最先端医療機器の整備に、民間金融機関から借り入れたお金は統合移転事業に使用しています。

※単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

**令和2事業年度決算の概要** 「投資その他の資産」「現金及び預金」は増加していますが、「土地」「建物・構築物」等の減少要因の方が大きいため、資産の部は対前年度比で36億円減の4,515億円となりました。

土地	建物、構築物	投資その他の資産	現金及び預金、有価証券、未払金	大学改革支援・学位授与機構債務負担金、長期借入金	資本剰余金
箱崎キャンパスの一部及び職員宿舎(諸岡、松香台、弥永)跡地等を売却したことにより、41.0億円減少しております。	農学系実習棟の竣工等で37.8億円増加した一方で、減価償却等により減少したため、全体で59.6億円減少しております。	資金運用に伴う投資有価証券が10.5億円減少した一方、箱崎キャンパスの跡地処分に伴う長期立替金が41.9億円増加したこと等により、現金及び預金が41.2億円増加しております。	資金運用に伴う投資有価証券が10.5億円減少した一方、箱崎キャンパスの跡地処分に伴う長期立替金が41.9億円増加したこと等により、現金及び預金が41.2億円増加しております。	病院における新たな借入れにより18.9億円増加した一方、箱崎キャンパスの建物撤去及び伊都キャンパス建物等の減価償却が増加したこと等により、46.5億円減少しております。	箱崎キャンパス等の売却により18.4億円減少しております。

九州大学の活動を支える財務状況

# 損益計算書 P/L (Profit & Loss Statement)

科目	H30事業年度	R1事業年度	R2事業年度	前年比
I 経常費用	129,600	125,206	124,642	▲563
業務費	124,741	120,296	119,750	▲546
教育経費	6,359	5,204	5,428	224
研究経費	15,166	12,250	10,795	▲1,454
診療経費	32,695	34,357	35,008	651
教育研究支援経費	3,887	3,357	3,133	▲224
受託研究費	9,095	6,940	7,029	89
共同研究費	2,340	1,989	1,859	▲130
受託事業費等	671	723	657	▲65
人件費	54,525	55,473	55,837	363
一般管理費	4,425	4,607	4,645	37
財務費用	389	286	198	▲88
雑損	43	14	48	33
II 臨時損失	479	669	183	▲485
固定資産除却損	466	427	170	▲256
固定資産売却損	-	-	1	1
減損損失	1	20	0	▲19
災害損失	11	4	11	6
その他	-	217	-	▲217
費用合計	130,079	125,876	124,826	▲1,049
I 経常収益	128,980	126,910	126,042	▲868
運営費交付金収益	40,565	38,461	37,995	▲465
授業料収益	9,054	9,171	8,325	▲845
入学金収益	1,493	1,511	1,487	▲23
検定料収益	266	266	266	0
附属病院収益	48,359	50,250	50,059	▲191
受託研究収益	9,788	9,347	9,287	▲60
共同研究収益	2,490	2,595	2,370	▲224
受託事業等収益	691	779	722	▲57
寄附金収益	2,903	2,938	2,811	▲126
補助金等収益	3,740	2,867	4,606	1,738
施設費収益	411	686	196	▲489
資産見返負債戻入	5,560	4,822	4,372	▲450
財務収益	38	44	43	▲1
雑益	3,610	3,161	3,492	330
その他	4	4	3	▲1
II 臨時利益	49	359	301	▲58
固定資産売却益	0	0	232	232
資産見返負債戻入(臨時)	48	159	68	▲91
その他	0	200	0	▲199
収益合計	129,029	127,270	126,343	▲927
当期純利益(収益合計-費用合計)	▲1,049	1,394	1,516	122
目的積立金取崩額	2,850	40	-	▲40
当期純利益(当期純利益+目的積立金取崩額)	1,800	1,435	1,516	81

※単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

## 令和2事業年度決算の概要

経常費用は、大型研究補助金の終了等に伴う「研究経費」の減少等により、対前年度比で5億円減の1,246億円となりました。また、新型コロナウイルス感染症対策補助金の措置等により「補助金等収益」は増加しましたが、固定資産取得の増加により「授業料収益」が減少し、経常収益は対前年度比8億円減の1,260億円となりました。当期純利益については、収益の減少額を費用の減少額が上回ったことにより対前年度比0.8億円増の15.1億円となりました。

## 前事業年度と比較した主な増減要因

研究経費	授業料収益	補助金等収益
世界トップレベル研究拠点プログラムの事業期間終了により6.0億円減少した一方、附属病院への新型コロナウイルス感染症対策補助金の措置により24.0億円増加したことにより、17.3億円の増加しております。	授業料を財源として取得した固定資産が増加したことにより8.4億円減少しております。	世界トップレベル研究拠点プログラムの事業期間終了により10.0億円減少した一方、附属病院への新型コロナウイルス感染症対策補助金の措置により24.0億円増加したことにより、17.3億円の増加しております。

# 九州大学の活動を支える財務状況 キャッシュ・フロー計算書

科目	H30事業年度	R1事業年度	R2事業年度	前年比
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	11,242	8,348	10,065	1,716
運営費交付金収入	43,059	40,601	39,005	▲ 1,596
附属病院収入	48,011	50,247	48,705	▲ 1,541
学生納付金収入	10,038	10,009	9,972	▲ 37
補助金及び受託研究等収入	17,984	15,465	18,378	2,912
原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲ 52,006	▲ 49,263	▲ 48,505	758
人件費支出	▲ 57,845	▲ 58,134	▲ 57,592	541
その他	2,000	▲ 578	101	680
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 944	▲ 8,154	▲ 2,345	5,808
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 5,938	▲ 5,161	▲ 3,762	1,399
IV 資金に係る換算差額	0	0	19	19
V 資金増減額( I+II+III+IV)	4,360	▲ 4,968	3,975	8,943
VI 資金首残高	16,244	20,604	15,636	▲ 4,968
VII 資金期末残高(V+VI)	20,604	15,636	19,612	3,975

※単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

## 令和2事業年度決算の概要

補助金等収入の増加及び業務費の支出減少等により業務活動によるキャッシュ・フローは100億円(対前年度比+17億円)となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは▲23億円(対前年度比+58億円)、財務活動によるキャッシュ・フローは▲37億円(対前年度比+13億円)であり、資金期末残高は196億円(対前年度比+39億円)となりました。

## 区分の説明

### I 業務活動によるキャッシュ・フロー

教育・研究・診療等の大学の通常業務の実施に伴う資金の収支状況を表します。教育や研究、診療などに必要な物品・サービスの購入や、学生のみなさまからの授業料、患者のみなさまからの附属病院収入などを計上しています。

### II 投資活動によるキャッシュ・フロー

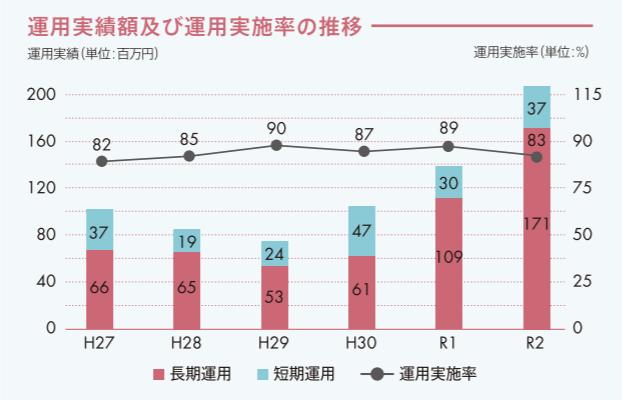
将来に向けた運営基盤確立のための投資の実施に伴う資金の収支状況を表します。定期預金や有価証券等による資金運用や固定資産の取得・売却などを計上しています。

### III 財務活動によるキャッシュ・フロー

資金調達や返済などに伴う資金の収支状況を表します。病院の整備や統合移転事業のために大学改革支援・学位授与機構や民間金融機関から借り入れたお金やその返済費用、リース契約により導入した設備の支払額などを計上しています。

## 財務活動トピックス

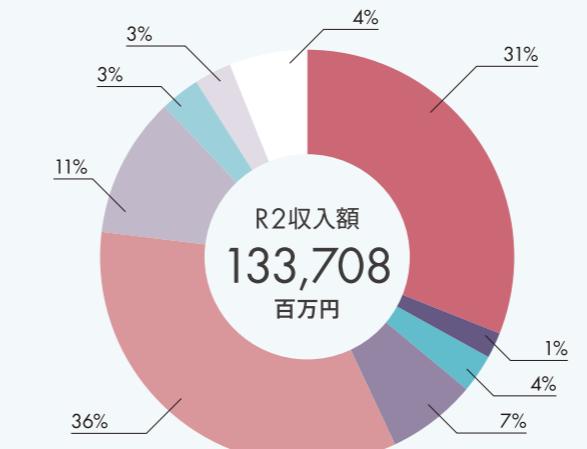
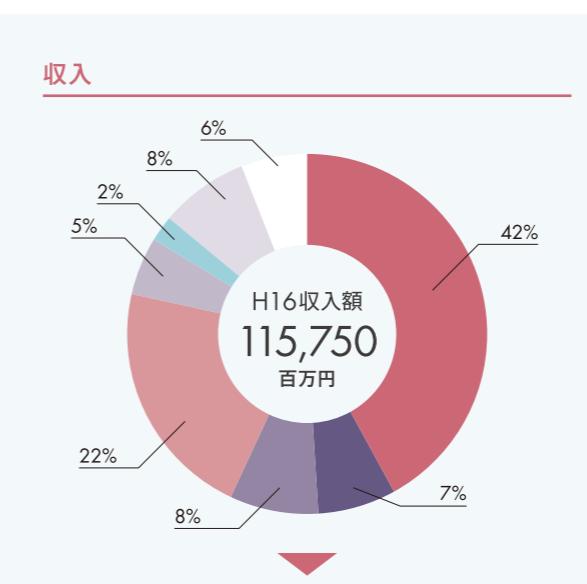
国立大学の法人化以降、毎年運営費交付金が削減されている中で、多様な収入源の確保が課題となっています。本学においては、当面支払いを予定していない手元の余裕金を財源として、従来からの国債等の債券の購入や定期預金等に加え、平成30年度より国の法律改正を受け、元本保証のある金融商品から、収益性が高く、リスクを伴う金融商品(外国債券等)の運用を開始することで、令和2年度は約2.1億円の運用収入を得ています。この活動によるお金の動きは、「投資活動によるキャッシュ・フロー」として表れます。金利の下落が進む状況下において、本学では綿密な資金繰り計画をたてることで滞留資金の圧縮を図り、今後も機動的かつ効率的な運用を行うことにより、更なる運用益の確保を目指します。



# 九州大学の活動を支える財務状況 財務構造(決算報告書)

## トピックス

平成16年度の法人化当初から10年以上経過し、本学の財務構造は大きく様変わりしています。収入面では、国から交付を受ける運営費交付金が減少する中、附属病院収入や産学連携等研究収入が大きく増加しており、中でも附属病院収入は、病院の経営努力により增收を続け、今では運営費交付金を上回っています。一方、支出面では、事業規模の増加に伴い全体的に増加していますが、とりわけ診療経費の増加が顕著となっています。



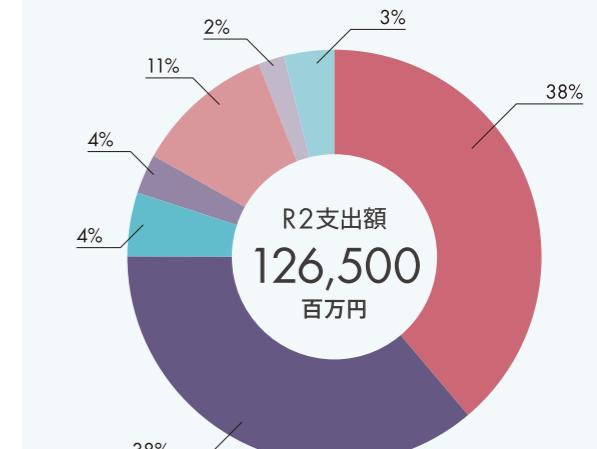
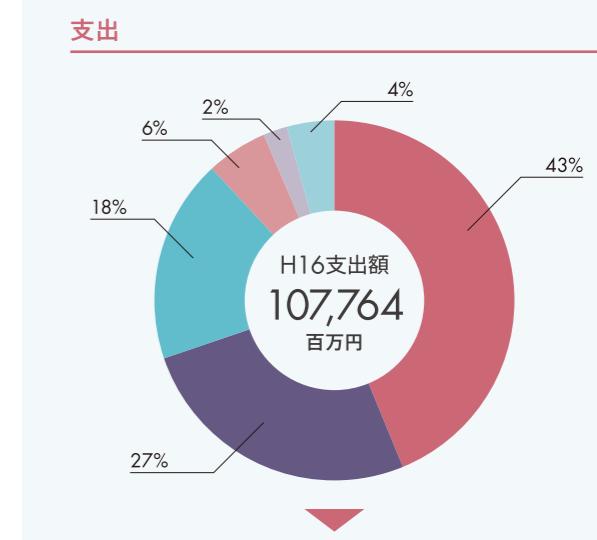
	H16	R2	単位:百万円 対H16比
運営費交付金	48,516	41,184	▲ 7,332
施設整備費補助金	8,148	1,122	▲ 7,026
補助金等収入	-	5,117	5,117
学生納付金収入	9,456	9,972	516
附属病院収入	24,849	48,705	23,856
産学連携等研究収入	6,058	14,902	8,844
寄附金収入	2,637	3,281	644
長期借入金収入	9,073	3,834	▲ 5,239
その他	7,011	5,586	▲ 1,425

\*上記のグラフは、決算報告書の決算額です。

\*H16の決算報告書では「一般管理費」という項目がありますが、便宜上このグラフでは「教育研究経費」「診療経費」に按分して計上しております。

\*上記の産学連携等研究収入などの外部資金は、他機関への分担金等を除外した額を計上しているため、P41に記載の受入額とは一致しません。

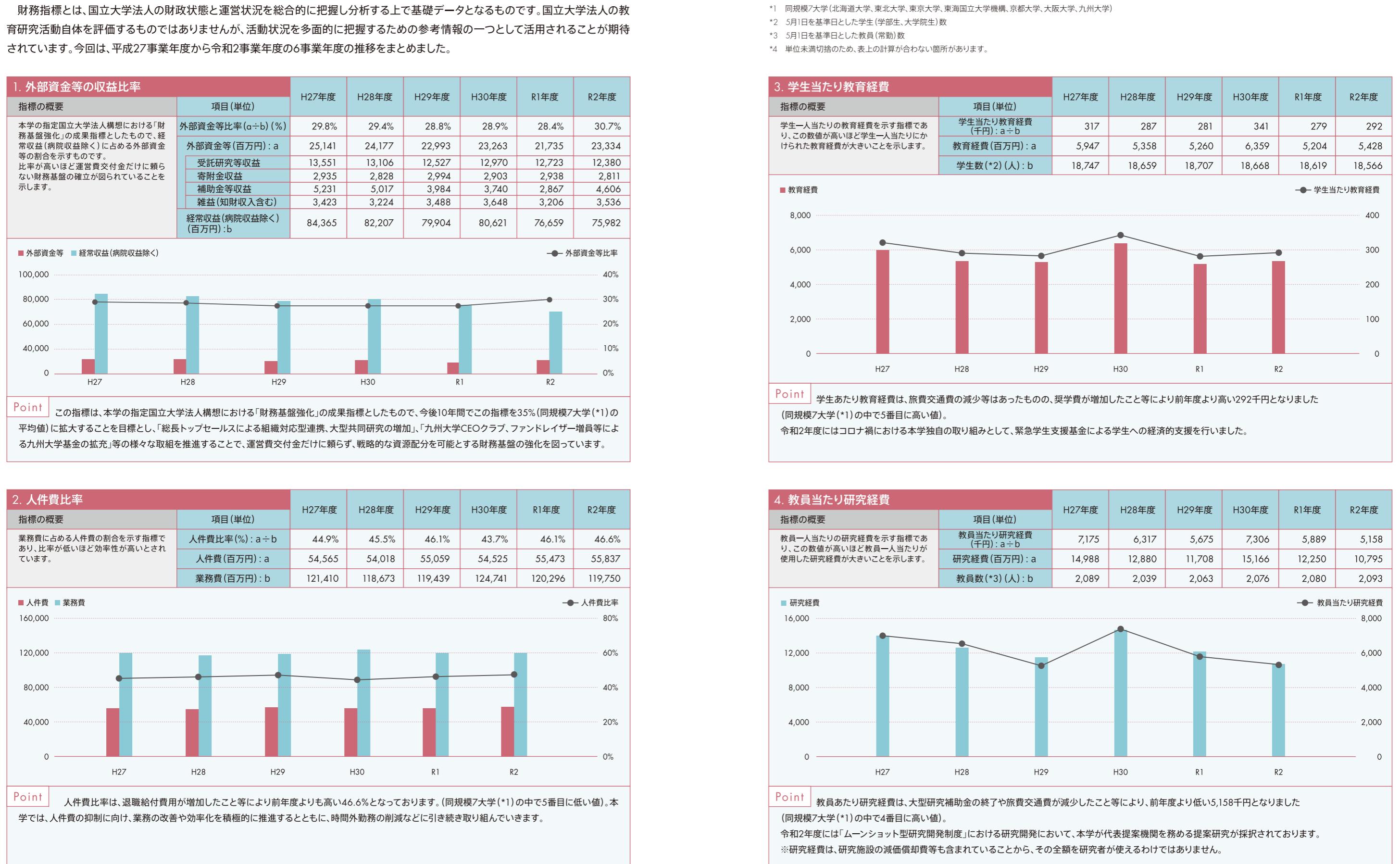
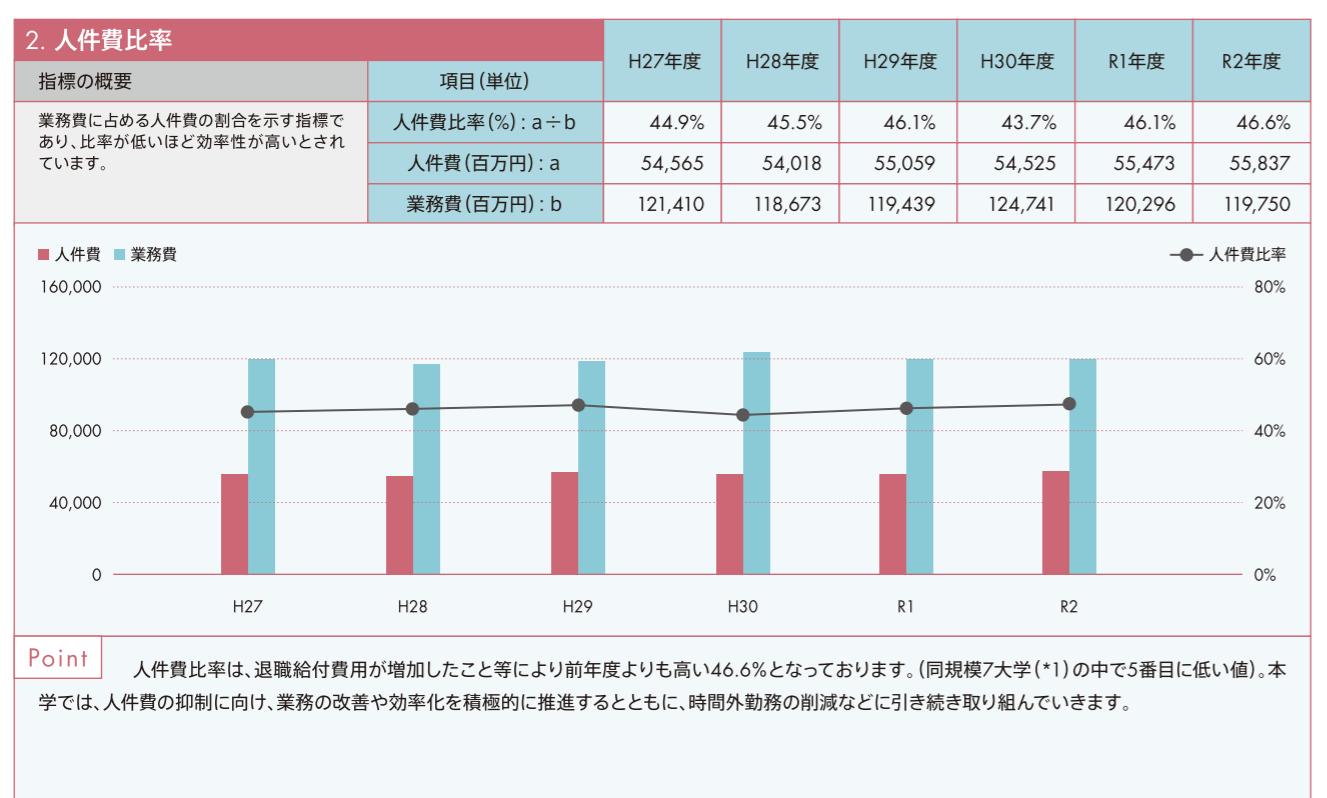
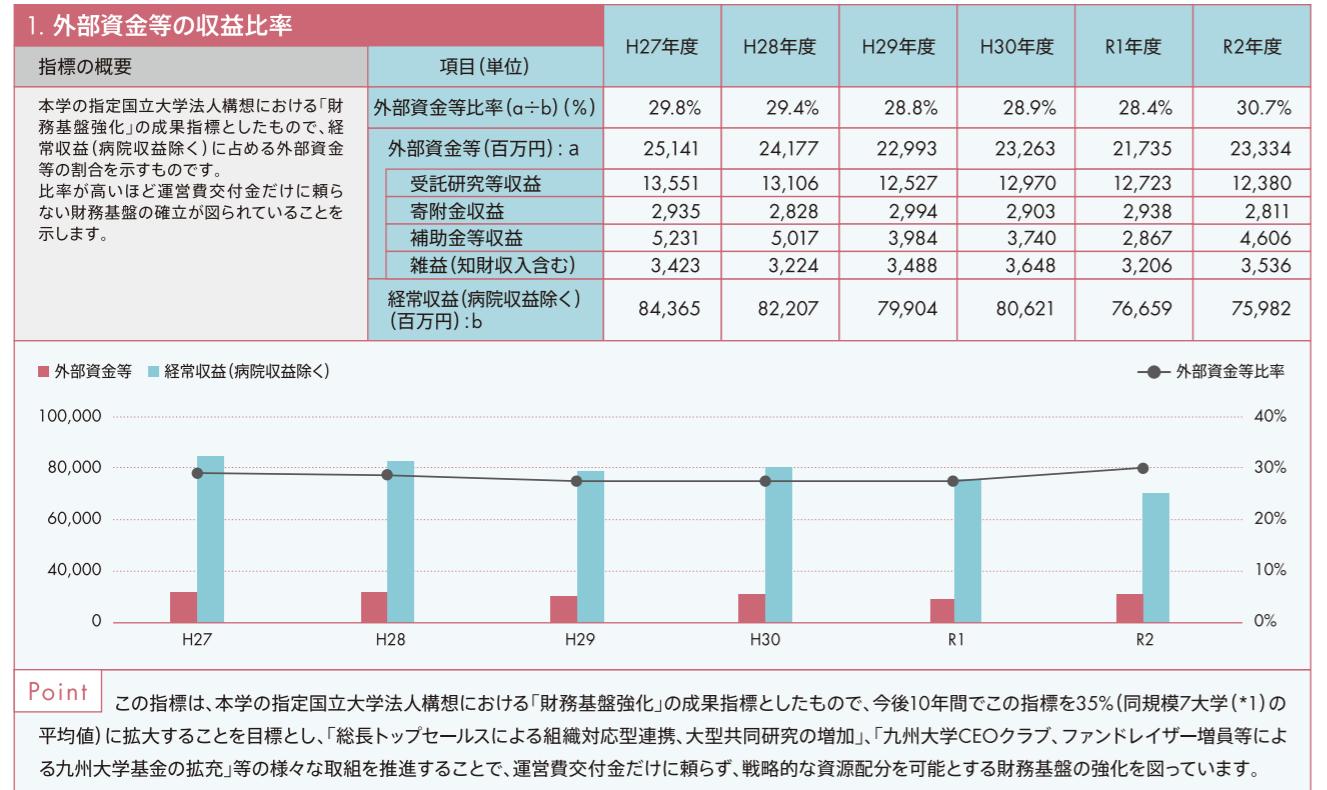
\*単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。



	H16	R2	単位:百万円 対H16比
運営費交付金	45,909	48,203	2,294
施設整備費	29,307	48,368	19,061
教育研究経費	19,622	5,030	▲ 14,592
診療経費	-	4,549	4,549
補助金等	6,022	14,304	8,282
産学連携等研究経費	2,214	2,583	369
寄附金事業費	4,689	3,459	▲ 1,230
長期借入金償還金	-	-	-

# 財務指標

財務指標とは、国立大学法人の財政状態と運営状況を総合的に把握し分析する上で基礎データとなるものです。国立大学法人の教育研究活動自体を評価するものではありませんが、活動状況を多面的に把握するための参考情報の一つとして活用されることが期待されています。今回は、平成27事業年度から令和2事業年度の6事業年度の推移をまとめました。

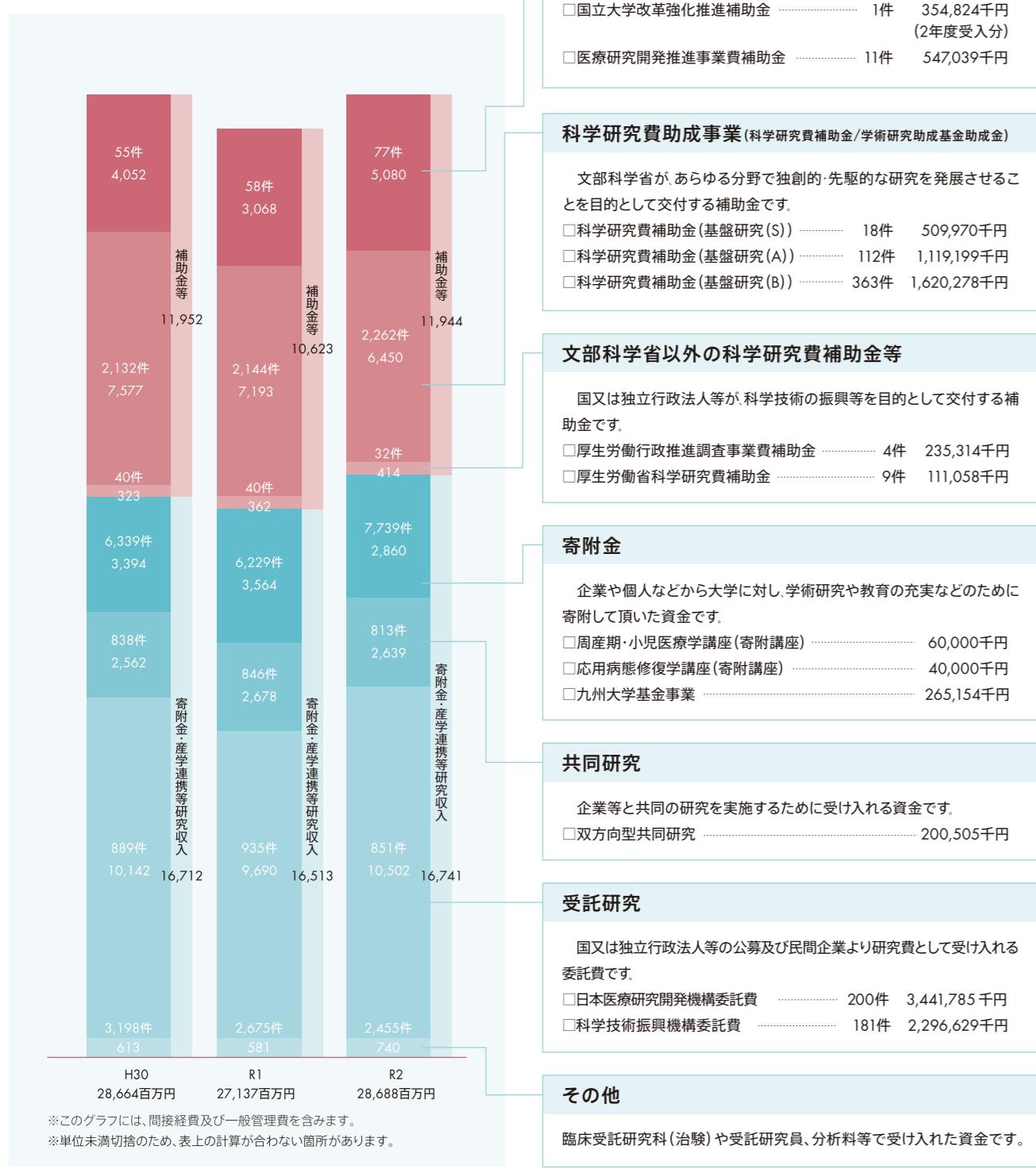


# 外部資金受入

本学では、国から交付される運営交付金のほかに、教育・研究活動を進展させるために不可欠である外部資金(科学研究費助成事業・産学連携等研究収入・寄附金等)の獲得に努めています。

## トピックス1

外部資金の受入額は、概ね同額で推移していますが、寄附金の受入件数は増加傾向にあります。本学では、より多くの方々に寄附していただけるよう、本学の施設利用や全国のホテル・レストランでの割引サービスなど、本学へ寄附していただいた方への特典の充実を図っています。詳細は、P47を参照してください。



### 補助金

国立大学改革強化推進補助金、医療研究開発推進事業費補助金、研究拠点形成費等補助金などがあります。

- 国立大学改革強化推進補助金 ..... 1件 354,824千円  
(2年度受入分)
- 医療研究開発推進事業費補助金 ..... 11件 547,039千円

### 科学研究費助成事業(科学研究費補助金/学術研究助成基金助成金)

文部科学省が、あらゆる分野で独創的・先駆的な研究を発展させることを目的として交付する補助金です。

- 科学研究費補助金(基盤研究(S)) ..... 18件 509,970千円
- 科学研究費補助金(基盤研究(A)) ..... 112件 1,119,199千円
- 科学研究費補助金(基盤研究(B)) ..... 363件 1,620,278千円

### 文部科学省以外の科学研究費補助金等

国又は独立行政法人等が、科学技術の振興等を目的として交付する補助金です。

- 厚生労働行政推進調査事業費補助金 ..... 4件 235,314千円
- 厚生労働省科学研究費補助金 ..... 9件 111,058千円

### 寄附金

企業や個人などから大学に対し、学術研究や教育の充実などのために寄附して頂いた資金です。

- 周産期・小児医学講座(寄附講座) ..... 60,000千円
- 応用病態修復学講座(寄附講座) ..... 40,000千円
- 九州大学基金事業 ..... 265,154千円

### 共同研究

企業等と共同の研究を実施するために受け入れる資金です。

- 双向型共同研究 ..... 200,505千円

### 受託研究

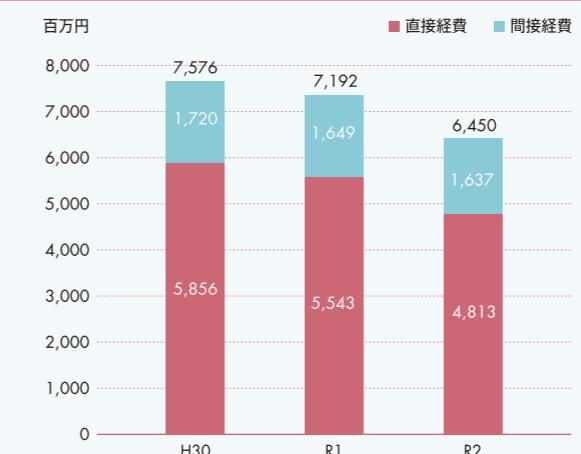
国又は独立行政法人等の公募及び民間企業より研究費として受け入れる委託費です。

- 日本医療研究開発機構委託費 ..... 200件 3,441,785千円
- 科学技術振興機構委託費 ..... 181件 2,296,629千円

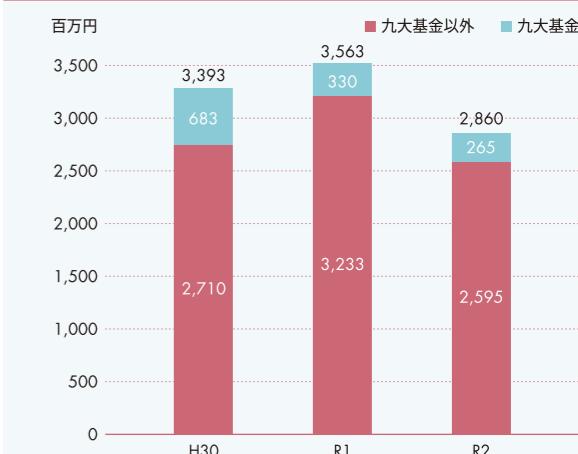
### その他

臨床受託研究科(治験)や受託研究員、分析料等で受け入れた資金です。

## 科学研究費助成事業受入額の推移



## 寄附金受入額の推移



## 共同研究受入額の推移

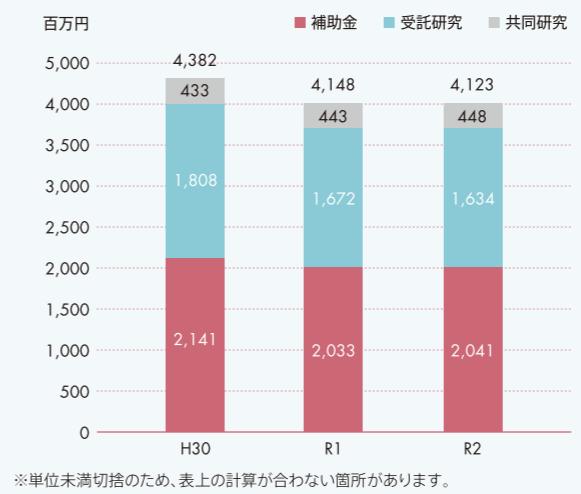


## トピックス2

本学では外部資金の獲得向上のため、若手研究者のための学内説明会や、学外から講師を招へいして個別相談会などを開催しています。また、「科研費申請・獲得ハンドブック」を日本語版に加え、英語版も作成し、全教員へ配布しています。このほか、本学における各種外部資金獲得状況や他大学との比較により本学の研究力の現状を分析した「研究戦略データ集」を全教員に配布し、学内において外部資金の獲得意欲の向上に努めています。



## 間接経費受入額の推移



# セグメント別の財務情報・成果・実績

## セグメント情報

現在、九州大学のセグメント情報については、財務諸表附属明細書において「国立大学法人会計基準」に従い、「学部・学府・研究院等」、「附属病院」、「応用力学研究所」、「生体防御医学研究所」、「情報基盤研究センター」、「先導物質化学研究所」、「マス・フォアインダストリ研究所」、「出資事業等」、「法人共通」の区分で開示しております。財務レポートでは、「学内外への見える化」の取り組みとして「学部・学府・研究院等」区分を、学部、学府、研究院、その他(学部・学府・研究院以外)に区分し開示します。

区分	学部・学府・研究院												
	人文科学系		教育系	社会科学系		理学系		工学系		農学系		保健系	
	人文科学 研究院	言語文化 研究院	教育学部	法学研究院・法務学府	経済学 研究院	理学 研究院	数理学 研究院	工学研究院	芸術工学 研究院	農学 研究院	医学 研究院	歯学 研究院	薬学研究院
業務費用	936	472	29	1,130	910	3,355	735	8,675	2,192	4,003	6,880	1,249	1,357
業務費													
教育経費	86	1	20	202	120	226	102	581	299	231	289	108	92
研究経費	73	30	0	62	87	747	89	1,535	212	582	1,057	233	333
診療経費	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
教育研究支援経費	-	-	-	-	0	-	-	0	7	-	-	-	-
受託研究費	0	-	-	10	0	88	0	1,147	14	299	1,697	34	172
共同研究費	0	-	-	2	2	33	-	332	41	222	192	5	59
受託事業費等	2	-	-	12	0	6	-	52	2	27	76	2	2
人件費	766	436	6	832	691	2,193	540	4,678	1,483	2,506	3,452	839	667
一般管理費	7	0	2	6	7	59	2	344	129	133	114	24	29
財務費用	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	-	0
雜損	-	3	-	-	-	-	-	1	0	0	0	0	0
業務収益	947	474	127	1,104	914	3,524	762	8,983	2,209	4,124	7,173	1,301	1,449
運営費交付金収益	427	466	-	393	106	1,874	530	3,063	1,200	1,958	2,394	810	502
学生納付金収益	457	-	118	608	734	870	76	2,771	709	932	1,081	217	300
附属病院収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
受託研究収益	0	-	-	14	1	115	1	1,438	17	364	1,894	49	233
共同研究収益	0	-	-	3	2	39	-	454	50	276	239	5	73
受託事業等収益	3	-	-	12	0	6	-	57	2	29	73	2	2
寄附金収益	9	3	-	20	15	112	10	271	46	151	832	36	133
補助金等収益	30	0	9	27	38	108	106	203	62	120	154	50	70
財務収益	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	0	-
雑益	13	4	-	15	10	144	24	252	49	112	223	71	61
その他	4	0	0	9	5	252	13	469	71	178	278	57	71
業務損益	10	2	98	▲25	4	168	26	308	16	120	292	52	91

\*1百万円未満の数値の場合は0と表示 0円の場合は-と表示

## 人文科学研究院

### 人文学国際教育研究拠点の整備拡充

人文科学研究院・人文科学府・文学部は九州大学を日本学・日本研究の国際的な教育・研究拠点とするために継続的な取り組みを行っており、令和2年度においては、部局内措置として「人文学国際研究センター」を設置しました。さらに、京都国立美術館との連携により、国際的な市民向け公開講座オンラインにより実施し、また国際日本学研究集会としてイエール大学との共催の国際シンポジウム「南蛮人を超えて—第一次グローバル時代の日本」を開催。双方の企画ともに多くの国際的な参加者を迎えて、大きな成功を収めました。

## 教育学部

### 糸島市教育委員会との連携事業

糸島市教育委員会と連携協定を結び、「教職演習」、「教育学フィールドワーク演習」、「子どもの支援」、「教育の情報化」、「糸島力」、「いとしま学」など多面的な連携事業を進めています。現在、コロナ禍においても、スクール・ソーシャル・ワーカー(SSW)事業の課題把握、不登校の子どもたちへの支援対策の検討、糸島市フリースペースの運営や、特別支援学校開設のため、福岡県・糸島市・本学との三者連携協議を進めています。



## 言語文化研究院

### 言語文化科目的動き

英語科目では、「教育の質向上支援プログラム」による学内競争資金を得て九大学生に適した学術英作文・プレゼンテーション用教材を開発しました。初修外国語(ドイツ語)では、コロナ禍で短期海外研修に行けなくなった学生に、現地の学生とのZoomミーティングによるプレゼンや討論の体験の機会を作りました。

また、令和3年度新入生から適用される新しい言語文化科目カリキュラムの準備作業を実施しました。

## 法学研究院・法務学府

### 法科大学院連携プログラム(通称「法曹コース」)

2019年度以降の入学者を対象とした、法科大学院既修者コースの教育内容と接続して体系的な教育を行う「法科大学院連携プログラム」(「法曹コース」)を2020年度に開設しました。本プログラムは、法学部3年及び法科大学院既修者コース2年の総計5年の一貫教育を行なうものですが、2020年度には定員30名に対して30名の登録申請がありました。

## 経済学研究院

### 経済学部経済・経営学科における総合型選抜の導入

経済学部経済・経営学科では、2020年の秋から2021年4月に入学予定の学生を対象として、従来のAO入試に代わる「総合型選抜」を新たに導入しました。総合型選抜は、大学入学共通テストの結果、調査書又はそれに代わる書類や志望理由書の内容及び小論文や面接の結果を通して、受験生の志望動機、知識、素養、思考力、適性などを多面的・総合的に評価します。令和3年度総合型選抜による入学者は22名であり、倍率は2.23倍でした。

## 数理学研究院

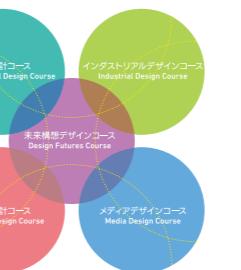
### 文部科学省卓越大学院プログラム

九州大学は文部科学省卓越大学院プログラム「マス・フォア・イノベーション卓越大学院」に採択されました。数理学府はシステム情報科学府・経済学府とともに、このプログラムを実施していきます。このプログラムは数学を用いてイノベーションを創発する卓越した数学モデリング人材を育成する、分野横断型の修士・博士一貫5年制大学院プログラムです。本プログラムでは、「卓越社会人博士課程制度」により、修士修了後の学生が企業への採用と同時に社会人として博士後期課程に進学することも可能となっており、プログラム生の経済的支援やキャリア構築、産学連携等の複数の課題への画期的な解決となることが期待されています。

## 芸術工学研究院

### 新しい芸術工学部

芸術工学部は、様々な社会変化に対応するため、学部改組を断行し、5学科体制から芸術工学科1学科の5コース体制といたします。これによって環境設計コース、インダストリアルデザインコース、未来構想デザインコース、未来構造デザインコース、メディアデザインコース、音響設計コースが誕生しました。新学科においては、領域を横断しながら国際感覚を身につけ、未来の姿や仕組みを構想できる「高度デザイン人材」の育成に取り組んでいます。



## 理学研究院

### 教育の国際化推進

新型コロナウイルスの感染拡大により海外留学が困難となっている状況下においても、理学部学生の海外留学への挑戦をバックアップするため、令和2年度はオンライン環境下での留学を行う学生(2名)を部局独自の「理学部留学支援奨学金制度」により支援しました。また、本学部学生向けに「サイエンス英会話筋トレ」をオンライン形式で開催し、学生の英語力向上を支援しています。

## 工学研究院

### 工学部及び工学系大学院改組

地球規模の課題に対応するため、常に技術開発と技術刷新が求められています。工学部及び工学系大学院では、優れた工学系人材の育成のため、令和3年4月に一斉に改組し、カリキュラムを全面的に見直しました。主な見直し点は以下の通りです。

工学部: 6学科から12学科に改組し、5学科群でグループ化。

工学部・大学院: 6年一貫型教育を実現するためのカリキュラムの変更。

工学部: 6専攻を廃止し、4専攻を新設。

## 農学研究院

### 新型コロナウイルス感染症

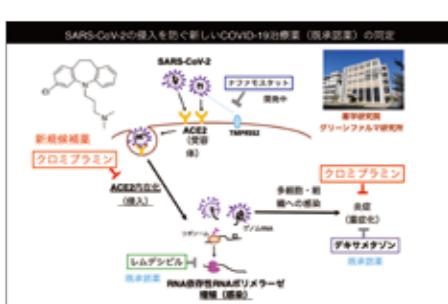
#### ワクチンの候補タンパク質開発

本学の開学以来100年に渡り収集を続けてきたオンラインのカイコリソースを利用した、農学研究院を中心としたカイコ研究チームが新型コロナウイルス感染症のワクチン候補となるタンパク質の開発に成功しました。新型コロナウイルスは、表面に存在するスパイク形状のタンパク質がヒト細胞の表面タンパク質と結合して感染しますが、これと類似した構造を持つ中和抗体を誘導できる組換えワクチン候補を安価に大量生産することに成功したのです。安心安全な国産ワクチンを大量に供給できることから本研究に対する期待は大きく、将来的に企業と連携した生産を目指しています。

## 歯学研究院

### 世界初の骨組成(炭酸アバタイト)人工骨の実用化

歯学研究院生体材料学分野では、世界初の骨組成(炭酸アバタイト)人工骨を実用化しています。炭酸アバタイト人工骨は自家骨とほぼ同等の機能を示しますが、自家骨を凌駕するには至っていません。人工骨の機能は構造にも影響されるため、ハニカム構造付与に関する検討を行いました。炭酸アバタイトハニカム人工骨は、ハバース管構造(血管を有する骨)を早期に再生し、歯科インプラントにおいて困難とされている垂直的骨造成に有用であることが示唆されました。



# セグメント別の財務情報・成果・実績

## セグメント情報

区分	学部・学府・研究院										病院	その他	合計			
	総合理系					共同利用・共同研究拠点										
	人間環境学研究院	統合新領域学府	比較社会文化研究院	基幹教育院	共創学部	システム生命科学府	システム情報科学研究院	総合理工学研究院	応用力学研究所	生体防御医学研究所	情報基盤研究開発センター	先導物質化学研究所	マスク・フォア・インダストリ研究所			
業務費用	1,124	80	828	1,194	130	113	2,236	1,600	1,560	1,641	1,944	1,467	452	57,586	20,753	124,642
業務費																
教育経費	74	67	59	197	60	84	244	198	-	4	18	0	-	15	2,038	5,428
研究経費	138	0	103	100	3	6	368	263	528	442	18	292	65	772	2,645	10,795
診療経費	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35,008	-	35,008
教育研究支援経費	0	-	-	2	-	-	-	-	-	1,651	-	-	-	-	1,471	3,133
受託研究費	11	-	33	15	-	-	329	53	88	546	21	356	68	641	1,396	7,029
共同研究費	15	-	0	18	-	-	89	83	172	35	1	126	33	48	342	1,859
受託事業費等	-	-	1	-	0	0	9	10	0	10	-	27	-	230	178	657
人件費	880	13	624	802	51	20	1,190	899	766	577	195	654	285	20,421	9,358	55,837
一般管理費	3	-	4	57	13	0	2	91	3	23	14	10	-	312	3,243	4,645
財務費用	0	0	-	0	-	-	1	0	1	0	23	-	-	124	47	198
雜損	-	-	0	0	0	-	0	-	-	-	-	-	0	11	29	48
業務収益	1,121	99	843	1,195	262	151	2,367	1,705	1,599	1,820	2,100	1,585	477	59,237	18,376	126,042
運営費交付金収益	769	-	665	975	44	3	1,088	1,066	1,026	716	1,776	759	302	4,049	11,020	37,995
学生納付金収益	228	76	85	-	194	138	313	161	-	-	-	-	-	-	3	10,079
附属病院収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50,059	-	50,059
受託研究収益	14	-	36	21	-	-	433	70	107	719	27	446	95	1,025	2,158	9,287
共同研究収益	18	-	0	23	-	-	118	102	180	40	2	155	38	56	488	2,370
受託事業等収益	-	-	2	-	-	0	11	12	0	13	-	28	-	236	223	722
寄附金収益	27	-	10	31	0	-	118	47	38	61	2	45	9	254	518	2,811
補助金等収益	16	-	1	11	12	-	79	10	3	14	27	3	1	2,906	536	4,606
財務収益	-	-	0	-	0	0	-	0	-	-	-	0	0	-	42	43
維益	22	0	21	30	0	-	95	82	34	142	192	75	17	376	1,418	3,492
その他	22	22	21	100	10	8	108	152	209	113	70	70	12	271	1,965	4,572
業務損益	▲3	18	15	1	132	37	130	105	38	179	155	117	25	1,651	▲2,376	1,399

\*区分「その他」には、事務局・図書館等を含む。※1百万円未満の数値の場合は0と表示。0円の場合はーと表示。

### 人間環境学研究院

#### 世界をリードする環境建築のための研究・教育センター (Built Environment Center with Art & Technology / BeCAT)構想の採択

芸術工学研究院、総合理工学研究院と共に環境をテーマにした建築研究教育センター/BeCAT構想が、学内公募制度に採択され、令和3年4月に開設しました。同センターには、ニューヨークで活躍する建築家、重松象平氏(本学卒業生)をセンター長に迎える予定です。BeCATでは、エンジニアリングとデザインを融合しながら持続可能で脱炭素な社会のための環境建築と都市のありかたを研究・教育し、その成果を具体的に社会実装していくことを目指しています。



### 統合新領域学府

#### 3専攻合同窓会「EKKYO Stadium」の開催

設置して11年目にあたる2021年の3月20日に統合新領域学府のコンセプトである理系・文系を越境して社会の求める新しい融合のカタチを模索してきた、ユーザー感性学、オートモーティブサイエンス、ライブラリーサイエンスの3専攻の同窓生、現役の教員、名誉教授など、総勢100を越える関係者が、オンラインで一同に集結しました。話題は、「統合新領域に参加してどんなことがハッピーだった?」世界各地からの声がスタジアムに届けられました。

### 比較社会文化研究院/地球社会統合科学府

#### 未来共創リーダー育成プログラムの設置

地球社会統合科学府が基幹部局となって学内6部局が連携する形で「未来共創リーダー育成プログラム」を設置しました。このプログラムは、高度に幅広い専門性から未来社会を構想し、オールラウンドな協働課題解決と決断、政策の立案・設計にあたることができる研究者および高度専門職業人を養成することを目的とする、学府横断・専攻型の大学院プログラムです。令和2年度はカリキュラムや実施体制の整備、広報を行いました。令和3年度に7名のプログラム生を迎えて開設し、学際的実践的教育を進めています。

### 基幹教育院

#### 教育改善推進の取組

基幹教育院では大学教職員職能開発等に関する各種FDを開催し、グッドプラクティスの情報共有や意見交換により理解を深め、教育に生かす取り組みを行っています。オンライン授業に関するFD講演会にも力を入れ、「リアルタイム(ライブ)型編、「オンデマンド型」編を行いました。アクティブラーニング科目の実施についてのFD講演会では、従来対面でのグループワーク等を用いてきた科目をコロナ禍で実施するための教職員の試行錯誤や、授業の実施状況、今後の検討課題や対策について情報共有し、今後の実施方法を考える場としました。毎回、学外者約50名を含む約150名の参加者がおり、内容やアンケートへの回答はWebサイトに掲載しています。

### システム生命科学府

#### オールラボボスタークンテストの開催

システム生命科学府で第15回オールラボボスタークンテストを開催しました。これは、情報科学、工学と生命科学が融合している当学府の特徴を活かし、異分野の学生・教員と研究について議論するということを主旨として、学生が発案して始まった企画であり、これまで学生主体で運営及び開催を行ってきました。今年度は初の試みとなるオンライン形式での開催となりましたが、16名の学生がポスター発表を行い、他分野の学生・教員との交流を深めました。

### 総合理工学研究院

#### 高専との連携の推進

高専専攻科から大学院総合理工学府への受け入れを積極的に行ってきました。それに加えて、本研究院の教員が中核をなす工学部融合基礎工学科では、九州・沖縄地区の9つの高専専攻科から3年次編入生を受け入れ、双方の強みと教育資源の有効活用による教育内容の高度化を図る連携教育プログラムを令和5年4月から新たに開始します。それに向けて、高専と定期的なミーティングや研究内容の相互理解のためのワークショップを開催しています。

### 生体防御医学研究所

#### 先端的な研究の推進

先端的な研究を積極的に推進し、発表した学術原著論文の合計は173報に上りました(客員教授含む)。そのうち、インパクトファクターが10を越える科学雑誌に掲載された論文は以下の7報でした。Nat. Immunol. 誌1報(免疫ゲノム生物学分野[馬場義裕教授])、Mol. Cell 誌2報(器官発生再生学分野[鈴木淳史教授]および腫瘍防衛学分野[野島孝之准教授])、Nat. Protoc. 誌1報(トランスクリプトミクス分野[大川恭行教授])、Nat. Commun. 誌2報(分子医学分野[中山敬一教授]および器官発生再生学分野[鈴木淳史教授])、Nat. Struct. Mol. Biol. 誌1報(エピゲノム制御学分野[佐々木裕之教授])。

### 先導物質化学研究所

#### 国際連携部門の活動

「大学改革活性化制度」の支援を受け「ソフトマテリアル部門」を設置し(2014年)、ソフトマテリアルに関する国際連携研究の展開や同分野におけるネットワーク型国際研究ハブ拠点としての活動を行い、世界に開かれた研究拠点活動を進めています。2020年度の成果として、「水環境における自己修復性と生体親和性を併せ持つ超分子の設計と合成に成功」を一例としてあげることができます。また、さらに、JSPS二国間国際交流事業に採択され共同研究が開始しました。

### マスク・フォア・インダストリ研究所

#### スーパーコンピュータ「富岳」がGraph500において2期連続で世界第1位を獲得

本研究所所属の教員が参画する共同研究チームが、今後予想される実データの大規模化及び複雑化に対応可能な世界最高レベルの性能を持つグラフ解析ソフトウェアの開発に成功しました。その結果、スーパーコンピュータ「富岳」を用いた測定結果で、大規模グラフ解析に関するスーパーコンピュータの国際的な性能ランキングである「Graph500」において、世界第1位を2020年6月、11月の2期連続で獲得しました。

### 共創学部

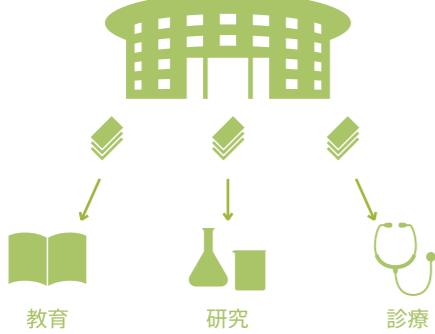
#### 入試改革の先導

共創学部では2018年4月の設置時から、4つの入試方式(総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、国際型入試)から成る「新入試QUBE」を全学の入試改革に先駆けて実施し、知識・技術のみならず、思考力・判断力・表現力や主体性・多様性・協働性を持つ多様な学生を選抜しています。2020年度は総合20名、学校推薦12名、一般67名、国際13名の計112名(うち女子学生は68名)が入学し、地域や男女の偏りの少ない学生たちが「共創的課題解決力」の獲得を目指しています。

### システム情報科学研究院

# 九州大学基金の取組

## 九州大学基金



九州大学基金は平成23年に、百周年記念事業の一つとして創設されました。グローバル化する世界の学術リーダーとして「知の新世紀を拓く」拠点の構築を目指し、世界中の人々から支持される質の高い高等教育を一層推進し、より善き知の探求と創造・展開の拠点として、人類と社会に真に貢献する研究活動を促進していくため、九州大学の教育研究、診療等に対する支援とその環境の更なる整備・充実を図ることを目的としています。

### 九州大学基金

創設時	33億40,77万6,957円
令和2年度残高	33億57,85万2,307円
寄附累計(令和2年度末)	21億416万7,578円

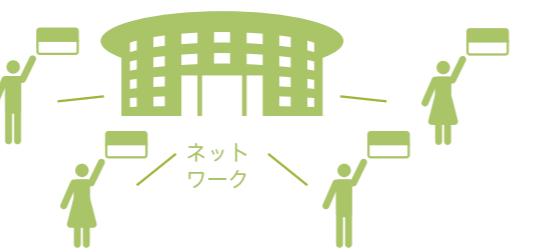
### 九大基金寄附額累計と年度末保有額



### 支援助成事業 各年度決定額



## 九大会員のご案内



九州大学では、年額2千円以上の継続寄附者、もしくは一括1万円以上の寄附者を対象とした、「九大会員」制度を実施しています。

### 入会(九州大学基金への寄附)の方法

卒業生や教職員、学生の保護者のみなさまをはじめ、本学を応援していただける方であればどなたでも九大会員になっていただけます。1回のみのご寄附のほか、ご希望の金額・サイクルを設定することで継続的にご支援いただくこともできます。

### 会員証の発行

九大会員のみなさまには、ご寄附申し込み後、九大会員証を発行します。平成25年度より発行を開始し、令和2年度末現在約8,000人の九大会員に九州大学基金を支援していただいているます。また、平成30年5月より、高額寄附者を顕彰するために終身会員制度を導入し、基準額に達した寄附者は終身会員証(有効期限なし)を隨時発行しています。



### 九大会員の特典

九大会員のみなさまには、学内外の施設利用やホテル・レストランの割引、生涯メールアドレスサービスなどのさまざまな特典をご用意しております。特典は随时更新し、みなさまに喜んでいただける特典の充実に努めています。最新情報は九州大学基金ウェブサイトに掲載しています。ぜひとも本学を応援していただき、九大会員となってください。

#### 学内・学外施設利用



・九州大学の附属図書館や各オフィス  
(博多駅・東京・大阪)のご利用  
・九州大学九重研修所(山の家)の利用  
・提携ホテル・レストラン割引など

#### 生涯メールアドレスサービス

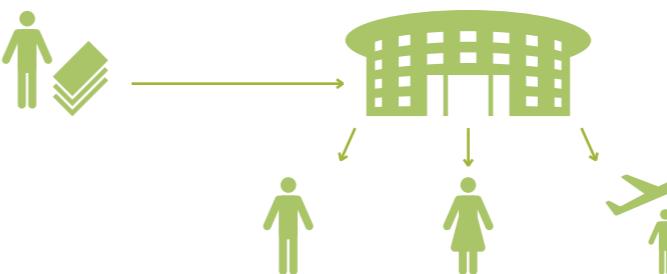


### 税法上の優遇措置

- ・所得税の寄附金控除を受けることができます。
- ・修学支援事業基金は税額控除の対象です。  
(税額控除: 小口寄附の減税額が大きくなる制度)
- ・自治体の条例で本学への寄附が控除対象として指定されている場合、住民税の控除を受けることができます。
- ・法人からの寄附は法人税法上の全額損金算入を認められている指定寄附金となります。

## 寄附の種類

### 一般寄附



特に使途を特定しない一般寄附は、主に学生を対象とした支援助成事業に活用しています。学生は、潤沢な資金を持ち合わせていない場合が多いことから、みなさまからいただいた寄附金が頼みの綱となっています。支援を受けた学生からの声を、一部ではございますが紹介します。

### 山川賞

山川健次郎初代総長の名を冠した賞であり、九州大学教育憲章が指向する人間性、社会性、国際性、専門性に対して優れた志を持ち、学業成績が優秀な学部学生を選考し、年間100万円を最短修業年限まで支給します。令和2年度は、32名の学生に総額3,200万円の奨学金を支給しました。

**SDGs International Design Awards  
「企業グランプリ最優秀賞」  
を受賞しました。**



▲木村紗彩さん:共創学部3年

このアワードでは、西日本シティ銀行が「キャッシュレス化された未来の銀行店舗における新しいデザイン」という企業課題に対する解決策を募集しており、「くつづくばんく」という銀行や若者、地元企業が交流したり、互いにマッチングしたりすることができる屋台システムをデザインしました。デザインにあたっては、九州大学の学生に対して日頃の銀行店舗の利用状況をアンケートするなどして調査し、主に若者の利用促進をテーマに企画を行いました。その結果、銀行店舗の新たな役割確立や地域におけるネットワーク構築を評価して頂きました。

### チャレンジ&クリエイション

院生・学生自らが若者らしい感性に基づくユニークな研究・調査プロジェクトを企画・計画し、自らが実践することで創造性発揮の喜びを知る機会を提供します。令和2年度は、1件50万円を上限に募集し、7件のプロジェクトを採択しました。

**SDGs International Design Awards  
「企業グランプリ最優秀賞」  
を受賞しました。**

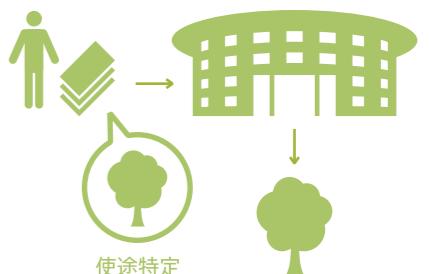


▲須田紫野さん:理学部3年

リンはDNA、RNA、細胞膜の主成分の一つであり、すべての生物を支えている元素です。現代の食料生産にはリン肥料が不可欠ですが、過剰なリンが河川へ流出すると藻類が増殖して水中の酸素を消費し、生態系の破壊につながります。また、リンは近い将来に枯渇すると推定されています。

本プロジェクトでは、このようなリンの環境問題・資源問題を解決することを目的に、合成生物学のアプローチからリンの蓄積を高める大腸菌の遺伝子回路を設計し、実際に実験で組み立てました。同時に、数理モデルによるリンの取り込み量の予測や、さまざまな専門家との対話、ホームページやプレゼンテーションビデオによるプロジェクト発信を行いました。プロジェクトの成果として、生物学版の「ロボコン」といわれる合成生物学の国際大会iGEMに九州大学から初めて参加し、銀賞を獲得することができました。

### 使途特定寄附



寄附者から使途を特定された寄附金については、使途特定寄附として受け入れています。

### 「新型コロナウイルス対策学生支援基金」及び「新型コロナウイルス対策留学生支援基金」

新型コロナウイルス感染症の影響により、生活に大きな影響が生じている学生(留学生を含む)のうち、国からの特別定額給付金や日本学生支援機構による奨学金の緊急支援、及び九州大学独自の「緊急授業料免除」や「緊急学生支援金」のみでは学業を継続することが困難な学生に対して経済的支援を行うことを目的に創設しました。令和2年度は465名の学生に対し、一人あたり10万円、計4650万円の支援を行いました。令和2年度寄附額:約5470万円

### 九州大学基金寄付型自動販売機



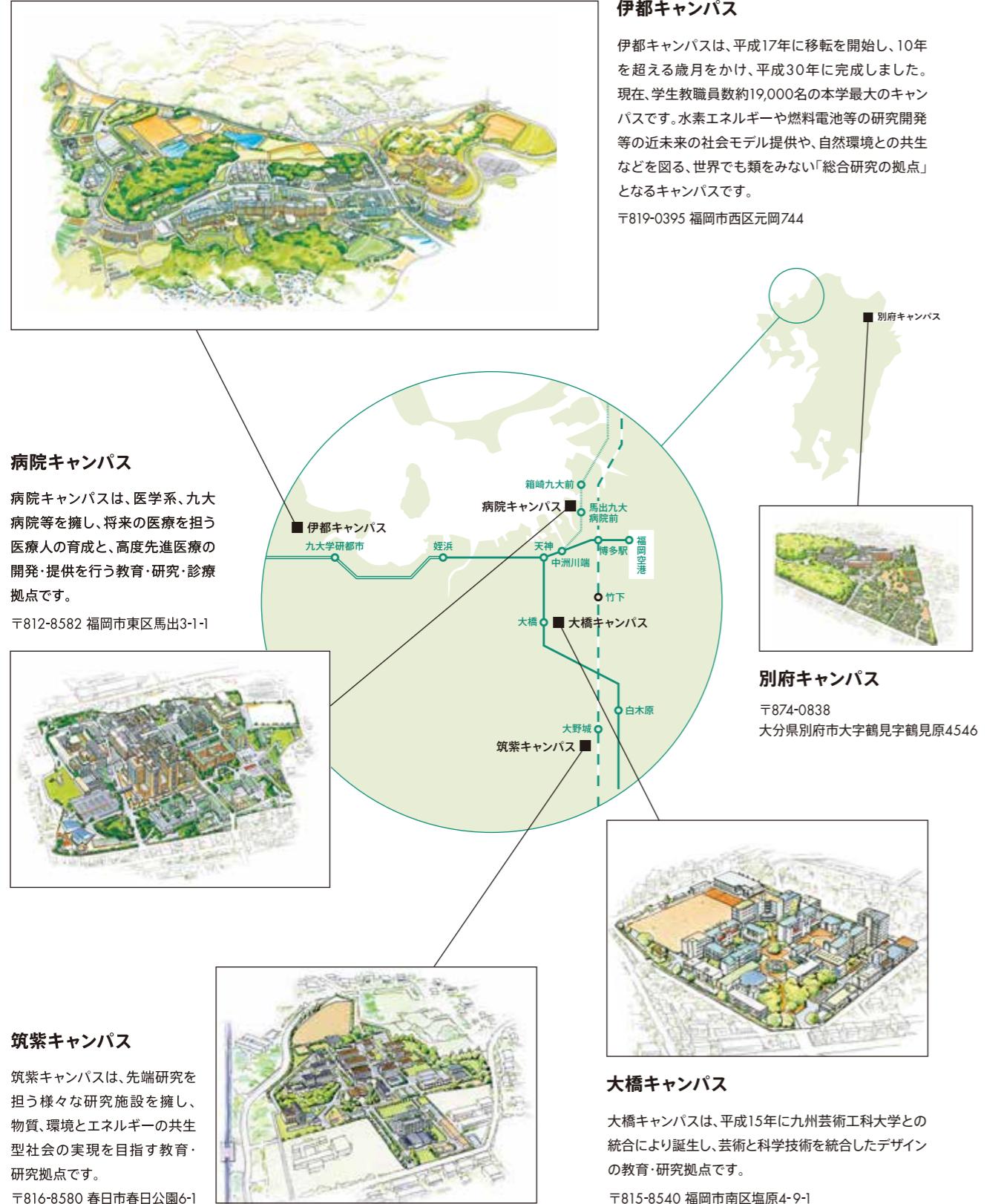
学外の複数個所に企業等により設置されました。今後、本自動販売機の売上の一部が九州大学基金へ寄附され、本学の支援事業等に活用されます。

このほか、学部周年事業等の使途特定プロジェクト等が多数進行中です。詳細は、下記ウェブサイトをご参照ください。

お問合せ	総務部同窓生・ 基金課基金係
詳細は九州大学基金ウェブサイトをご覧ください。 お問合せの方は、下記番号までご連絡ください。 TEL 092-802-2150	九 大 基 金 検 索

# キャンパス紹介

特色のあるキャンパスが多様な活動を支えています。



## 理事メッセージ

「九州大学財務レポート2021」を最後までお読みいただきありがとうございます。

2021年版においては、財務情報を中心に代表的な教育、研究、診療、産学官民連携の活動状況を紹介する従来の内容に加え、セグメント別（学部・学科、研究所等）に財務情報と非財務情報を組み合わせて、教育研究等の成果・実績情報を掲載する新たな試みを行い、本学を支えていただいている皆様に本学の活動をより深くご理解いただくことを心がけました。

財務レポート本文でも紹介いたしましたが、九州大学は2021年11月に、文部科学大臣から「指定国立大学法人」の指定を受けるとともに、2030年に目指す姿を実現するため、「Kyushu University VISION 2030」を策定しました。

今後、「Kyushu University VISION 2030」に基づき、本学構成員が一丸となり、教育、研究、社会共創、国際協働の各取組を展開してまいりますが、ビジョンの実現には、各取組に対する戦略的な資源配分が不可欠となります。

このため本学では、これまでも運営費交付金だけに頼らない財政基盤の確立に向け様々な取組を行ってきたところですが、教育研究に係る外部資金の獲得拡大、産学官連携の推進、九大基金の充実、資産の運用や有効活用などの多様な財源の確保や徹底した管理的経費の削減をより戦略的に行うことにより、財務基盤の更なる強化に取り組んでまいります。

引き続き、より多くのみなさまに本学の現状をわかりやすくお伝えしていくので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年12月  
九州大学理事・副学長（財務担当）

福田 晋

